

福島語五十音図（標準語解説つき） 2021年3月15日版

「つぁ、ち、つ、つえ、つお」の子音は
ローマ字でcと書くことにします

ぱ pa	ば ba	だ da	ざ za	が ga	わ wa	ら ra	や ya	ま ma	は ha	な na	つぁ ca	た ta	さ sa	か ka	あ a
ぴ pi	び bi	ぢ zu	じ zu	ぎ gi		り ri		み mi	ひ hi	に ni	ち cu		し su	き ki	い e
ぷ pu	ぶ bu	づ zu	ず zu	ぐ gu		る ru	ゆ yu	む mu	ふ hu	ぬ nu	つ cu		す su	く ku	う u
ぺ pe	べ be	で de	ぜ ze	げ ge		れ re		め me	へ he	ね ne	つえ ce	て te	せ se	け ke	え e
ぽ po	ぼ bo	ど do	ぞ zo	ご go	ん N	ろ ro	よ yo	も mo	ほ ho	の no	つお co	と to	そ so	こ ko	お o

- 上段は読み書きしやすい「漢字かなまじり」の表記、下段は古典的な福島語の音を反映した「ローマ字」の表記です。

- 二重線で囲った「い・え」「し・す」「ち・つ」「じ・ず・ぢ・づ」は、古典的な福島語では区別なく発音されますが、「漢字かなまじり」の表記では標準語に準じて書き分けます。

ぴゃ pya	びゃ bya	じゃ zya	ぎゃ gya	りゃ rya	みゃ mya	ひゃ hya	にゃ nya	ちゃ cya	しゃ sya	きゃ kya
ぴゅ pyu	びゅ byu	じゅ zyu	ぎゅ gyu	りゅ ryu	みゅ myu	ひゅ hyu	にゅ nyu	ちゅ cyu	しゅ syu	きゅ kyu
		じえ zye					にえ nye	ちえ cye	しえ sye	
ぴょ pyo	びょ byo	じょ zyo	ぎょ gyo	りょ ryo	みょ myo	ひょ hyo	によ nyo	ちょ cyo	しよ syo	きょ kyo

例) 書いた kaeta／変えた kaeta、くじ（籤）kuzu／くず（屑）kuzu

- 「か行」「た行」「つぁ行」の音は濁音と同じ音で発音されることがありますが、濁点をつけると読み書きしにくいので、清音として表記します。

例) はたく（ハダグ [hada gu]）と発音しても濁点をつけずに書く）、勝つ（カズ [kadzu]）と発音しても濁点をつけずに書く）

基礎から学ぶ

福島語

（日本語福島県北部方言）

白岩広行 著

はじめに（福島語）

方言は標準語が崩れてできたもんじゃねえ。方言には方言として、れっきとしたことばの仕組みがある。この教科書では福島のことばを「福島語」って呼んで、そいつを勉強する。

この教科書は、福島語の仕組みを基本から勉強できるように作った。英語とか中国語とかの外国語、アイヌ語みてえな国内の少数言語を勉強すつときと同じように、福島語を知らない人でも、これを読めば福島語がわかって使えるようになることを目指してる。

福島語が話せる人には「んだんだ。福島語はこんな仕組みがあるよな」って思いながら読んでもらえっとうれしい。この教科書は、おれの身近な人の話す福島語を基準に作った。同じ福島語にも個人差とか地域差はあつから、ここさ書いた福島語と自分の話す福島語に違いがあつたら、その違いも楽しんでほしい。

国内の異言語つつう感じで、福島語の仕組みを楽しんでもらえっとうれしいな。

はじめに（標準語）

方言は標準語が崩れてできたものではありません。方言には方言として、独自のことばの仕組みがあります。この教科書では福島のことばを「福島語」と呼び、その仕組みを学習します。

この教科書は、福島語の仕組みを基本から学べるように作りました。英語や中国語などの外国語、アイヌ語のような国内の少数言語を勉強するのと同じように、福島語を知らない人でも、これを読めば福島語がわかって使えるようになることを目指しています。

福島語が話せる人には「そうそう。福島語はこんな仕組みがあるよね」と思いながら読んでいただけると幸いです。この教科書は、筆者の身近な人の話す福島語を基準に作りました。同じ福島語にも個人差や地域差はありますから、ここに書いた福島語とご自分の福島語に違いがあつたら、その違いも楽しんでください。

国内の異言語として、福島語の仕組みを楽しんでいただければ幸いです。

目次

Lesson1 福島語とは

1. なぜ「福島語」と呼ぶか
2. 話されている地域
3. 話者数
4. 言語系統上の位置づけ
5. 方言区画上の位置づけ
6. 言語としての特徴

Lesson2 文字・母音

1. かなと漢字
2. アルファベット
3. 母音

Lesson3 子音・アクセント

1. 子音
2. アクセント・イントネーション

Lesson4 宿題忘っちゃえ、怒らっちゃ。

1. 代名詞
2. 複数
3. 基底形と表層形
4. 音韻規則 $ae \rightarrow ee$
5. 音韻規則 $ru=k \rightarrow k=k$ 、 $ru=t \rightarrow t=t$
6. 音韻規則 $ret \rightarrow ccy$

Lesson5 おれんとか男前に撮れよ。

1. ズーザー弁ではない世代
2. 母音間でも有声化しない k 、 t 、 c

3. 主語と目的語
4. 音韻規則 $ru=m,n,g \rightarrow N=m,n,g$
5. 音韻規則 $ru=N \rightarrow N$ 3. 終助詞「つけ」
コラム 福島語の助詞

Lesson6 ばあちゃんさままでおる買ってきた。

1. 格助詞「に」と「さ」
コラム 「さ」の地域差
2. 丁寧の終助詞「い」
コラム 福島県内の方言差

Lesson7 スマホの使い方わかんねえな。

1. 動詞の否定形
コラム 動詞の活用
2. 形容詞の否定、形容動詞・名詞の否定
3. 音韻規則 $ran \rightarrow Nn$
4. 音韻規則 $ni_n, no_n \rightarrow N_n$

Lesson8 車で来てっから飲まんにい。

1. 可能表現と受身表現
2. 音韻規則 $rene, rine \rightarrow Nni$
3. 「(ら) れる」の活用
4. 「んねえ」と「んにい」
5. 長母音の短母音化

Lesson9 しみみちも、んまいかったな。

1. 形容詞の基本語幹
2. 形容詞の第二語幹
3. 形容詞の第三語幹
4. 形容詞の活用の整理
まとめ これまで習った音韻規則一覧

Lesson10 雨やんだべ。畑さ出っぺ。

1. 推量・確認と意志・勧誘の「べ」
 2. 音韻規則 ru=z → c=c、ru=b → p=p
- コラム 「べ」の時代的変遷と地域差

Lesson11 昨日はいたったけんちょも、今日はいたかな。

1. 音韻規則 teta→tta
2. 現在を表す「いた」
3. 過去だけを表す「たった」

まとめ 福島語の時間表現

コラム 「いた」と「たった」を使う地域

Lesson12 この車、新しく買ったんだっけ。

1. 説明の「んだっけ」
2. 終助詞「べした」
3. 一時的状態を表す「～くている」

コラム 他方言・他言語の一時的状態の表現

Lesson13 いいから飲まっせ。遠慮しらんな。

1. 命令形
 2. 依頼の表現
 3. 勧めの表現
 4. 禁止の表現
- コラム 「くれる」の命令形

Lesson1 福島語とは

1. なぜ「福島語」と呼ぶか

下の地図はヨーロッパの地図に日本地図を重ねたものです。日本の国土は東西南北に細長く広がっていて、北海道がスウェーデンだとすると、おおむね東日本はドイツ、西日本はフランス、琉球列島はスペイン、小笠原諸島はイタリアに相当するほどの地理的な広がりがあります。

ここに示したヨーロッパの各地では、スウェーデン語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語のほか、オック語（フランス南部）、カタルーニャ語（スペイン東部）などの地域言語が話されています。

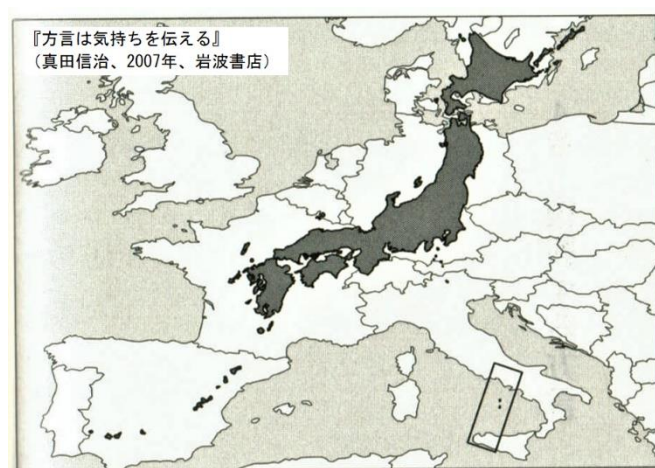


図 4.1 ヨーロッパの地図の上に日本をおいてみると

これほど広がりのある日本列島で話されていることばがひとつの日本語であるはずがありません。地域ごとに多彩なことばがあります。それらのことばは「方言」と呼ばれることが多いですが、独立した「言語」と呼んでみるのも面白いでしょう。「方言」と呼ぶと、どうしても「標準語」の亜種のように感じられますが、

各地のことばは標準語とは別の独立した文法体系、独立した価値を持っています。そのような独立性を重視して、この授業では福島県県北地方で話されることばを「福島語」と呼び、「標準語」と対等なものとして位置づけます。

2. 話されている地域

福島県は東北地方のもっとも南に位置します。福島県のことばは、通常は東北のことばの一種と見なされますが、関東北部の栃木・茨城両県のことばとも共通点が多くあります。ことばの面から見ると、東北地方と関東地方の間に明確な境界線はなく、北から南に向かうにつれて少しずつ関東的になるというのが東北・関東地方のことばの特徴です。そのような連続体のなかで、やや「東北寄り」に位置するのが福島県のことばです。



(菅野宏「福島県の方言」『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』(国書刊行会、1982年)をもとに作図)

福島県はとても広いので、県内のことばもいくつかの地域ごとに下位区分されます。区分のしかたは場合によって異なりますが、上図に示したのは10の区分を設けたものです。この授業では、県庁所在地の福島市およびその隣の伊達市・伊

達郡を「福島県北部地域」と呼び、この地域のことばを「福島語」と呼んで学習します。より具体的には、この地域出身である筆者の身近で使われることばを基準とします。同じ福島県でも、地域によって、人によって、話すことばは少しずつ違います。福島県ご出身の方で「この教科書の福島語は自分の福島語と違う」と思った方は、その違いも楽しんでください。

3. 話者数と世代差

昔ながらの伝統的な福島語を話すのはおおむね 80 代以上の高齢者です。戦後に育った 70 代以下の世代では段階的に標準語化が進んでいます。2020 年 9 月の福島県の発表（福島県の推計人口）によると、福島県北部地域の総人口は約 38 万人で、そのうち 75 歳以上の高齢者が約 6 万人を占めます。ですから、伝統的な福島語の話者数は数万人というところでしょう。

ですが、若い人々も、多くは伝統的な福島語の理解能力を持っています。この地域で生まれ育って、お年寄りの話すことばがわからないという子どもは少ないはずです。ですから、伝統的な福島語を理解する話者の数は、この地域の総人口約 38 万人に近い数だと思われます。

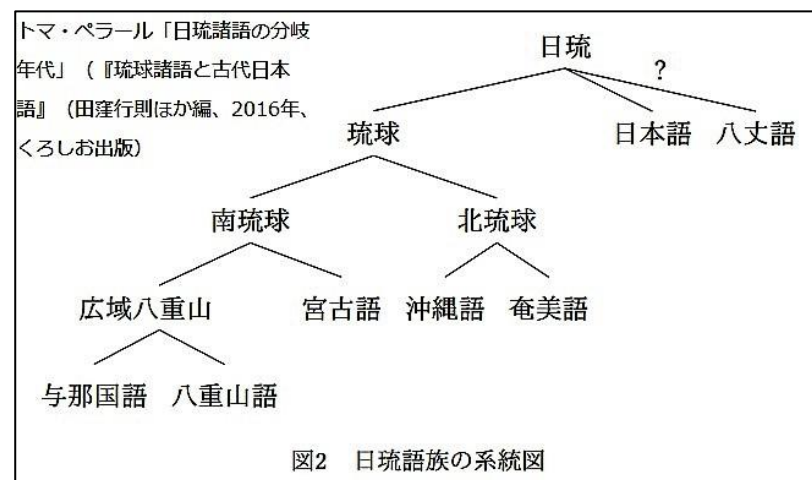
また、70 代以下の世代では標準語化が進んでいますが、特有のイントネーションや文末表現を使うなど、福島語の特徴も若い世代に残っています。そのような標準語化の進んだ福島語を含めると、やはり話者人口はこの地域の総人口約 38 万人に近い数だと思われます。

この教科書では、高年層の伝統的な福島語とともに中若年層の福島語の特徴も紹介し、そのような世代差についても簡単な解説を加えます。

4. 言語系統上の位置づけ

日本列島に土着のことばは、アイヌ語を除き、すべて同じ起源を持つ同系統のことばです。最近では、琉球列島のことばを琉球諸語（奄美語、沖縄語など）、本土のことばを日本語、八丈島のことばを八丈語として、下図のような系統関係を想定することが提案されています（八丈語の位置づけについては要検討の状態です）。いちばん上に「日琉」と示された祖語から各言語が分岐して成立したという

系統図です。



琉球については各地域の言語がこの系統図のように分岐して成立したと考えられますが、本土のことば（日本語）については、地続きで話されることばが互いに複雑に影響しあっていて、各地域のことばの成立過程を琉球諸語のような分岐関係で捉えきることができません。

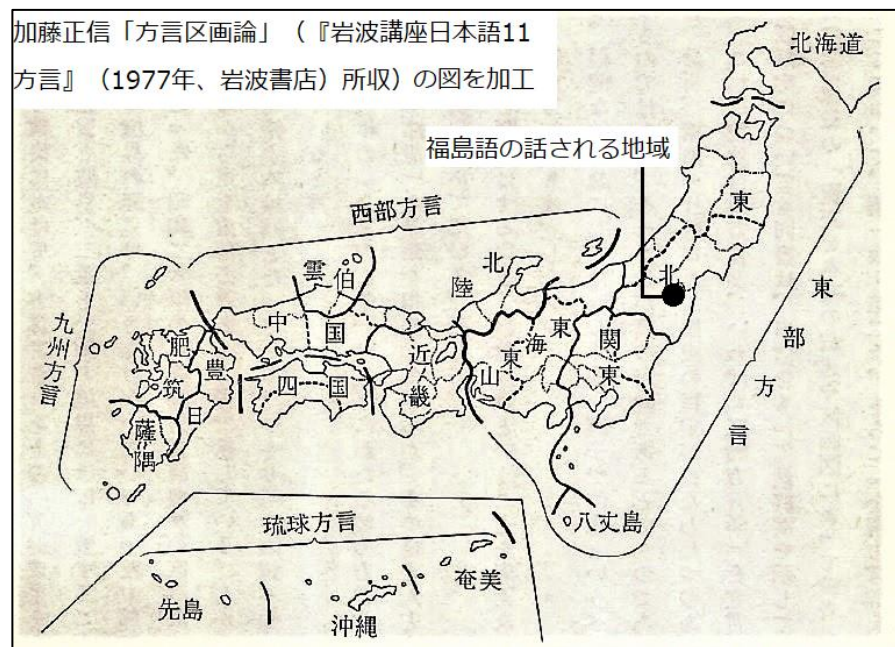
ですが、東京の人が東北や九州の人のことばを聞いて理解できないことがあるように、本土で話される各地のことばにも、異言語といってよいほどの多様性があります。福島語もそのような多様な本土のことばの一種です。

5. 方言区画上の位置づけ

上で述べた系統関係は言語の歴史的な起源を示したものですが、これと別に、方言研究の分野では「方言区画」というものがあります。方言区画とは、歴史的な分岐関係と関係なく、全国各地の方言を似たものどうしで地理的に分類したものです。

下の図で示すように、方言区画上、福島語は東北地方南部の方言として分類されます。ただし、「1. 話されている地域」で述べたように、実際には方言区画の境

界線で東北方言と関東方言が明確に分かれるわけではなく、福島語には関東北部のことばとの共通点も多く見られます



6. 言語としての特徴

系統的に同起源の言語ですから、福島語の特徴は基本的に標準語と似ています。例えば音声面では、標準語とほぼ同じ母音、子音が使われます。しかし、標準語の「い」「え」、「し」「す」、「ち」「つ」にあたる音が区別されず、それぞれ、「い」と「え」の中間音、「し」と「す」の中間音、「ち」と「つ」の中間音で発音される点異なります。五十音図に「つぁ行」があるのも特徴です。母音間でkの音が[g]、tの音が[d]、gの音が鼻にかかった [ŋ] と発音されるのも、福島語の発音の特徴です。

福島語には多くの音韻規則があります。例えば、「忘れるな」という音連続は音

韻規則が適用されて「忘れんな」と実現します。この「忘れるな→忘れんな」という音韻規則は日本国内の他地域のことばにも見られますが、「忘れた→忘っちゃ」「忘れない→忘んにい」のように福島語に特有の音韻規則も多くあります。

文法についても、基本的な語順が「主語、目的語、動詞」の順になる点、名詞に格助詞がついて格関係を表す点、動詞に接尾辞がついて活用する点など、基本的に標準語と同じ特徴を持ちます。一方、標準語で「学校に行く」「7時に集まる」のように「に」を使う文で「学校さ行く」「7時に集まる」のように「さ」「に」の2つの格助詞を使い分ける点、推量や意志の意味で「雨だべ」「飲むべ」のように「べ」を使う点、過去表現で「起きた」のような「た」のほか「起きたった」のような「たった」も使う点など、福島語に特有の文法事象がいくつもあります。

このように、基本的なことばの仕組みは標準語と共通しますが、福島語に特有の特徴もたくさんあります。この授業では、標準語と同じところも違うところもすべてひっくるめて福島語の仕組みを捉えます。

「方言」というと、標準語と違うところだけが注目されがちですが、福島語の音声や文法の仕組みは、標準語と同じところも含めて全体が成り立っています。この教科書では標準語と違うところを重点的に説明しますが、標準語と同じところも含めて福島語の個性であることは忘れないでください。人に例えていえば、“他人と違うところが個性”ではなく“他人と同じところもひっくるめて、その人のすべてが個性”です。福島語がどのような個性を持った言語か、その魅力をお伝えできるようにしたいと思います。

Lesson2 文字・母音

1. かなと漢字

福島語の正書法は定まっていますが、標準語と同系統の言語なので、この本では標準語に準じた漢字かなまじり表記、および、アルファベット表記を併用して書くことにします。

漢字かなまじり表記は日常的な使用を目指した表記法です。ほとんどすべての福島語話者は、標準語とのパイリンガルです。また、「頭、手、足」や「雨、雲、風」など、福島語の多くの単語は標準語と共通しています。ですから、標準語と同じ漢字かなまじり表記が日常的な使用に向いていると考えました。使用するかなと漢字は標準語と同じものです。福島語のために特殊なかなや漢字を作ることとはしません。

伝統的な福島語では「い」と「え」の発音上の区別がなく、どちらともいえない中間的な音で発音されます。「し」と「す」、「ち」と「つ」、「じ（ぢ）」と「ず（づ）」も区別がなく、それぞれ「す」「つ」「ず（づ）」に近い音で発音されます。詳しくは後で述べますが、「ズーズー弁」といわれる特徴です。ですが、この特殊な発音をかなづかいに反映させると非常に読み書きしにくいので、標準語に準じて「い」「え」、「し」「す」、「ち」「つ」、「じ（ぢ）」「ず（づ）」のそれぞれのかなを書き分けます。中若年層の福島語話者は、標準語にあわせてこれらの音を発音しわける傾向にありますから、今後の福島語の読み書きのためにも、それが合理的だと考えます。

また、「きく（聞く）」という語がキグ、「あたま（頭）」という語がアダマというように、kの音が [g]、tの音が [d] で発音されることがあります。しかし、このような発音もかなづかいには反映させず「きく」「あたま」と書きます。この場合の [g] と [d] の音を「きぐ」「あだま」のように濁音を使って表記すると、文章が濁点だらけになって読み書きしにくくなります。また、次のアルファベット表記に関して述べますが、文法面の整理をするためにも、これらの音を k、t と見なして表記したほうが都合がよいと考えます。

以上のように、福島語のかなづかいについては、書くときは標準語と同じよう

に書き、発音するときは福島語の音で声に出すということにします。そもそも、発音には世代差や細かな地域差もあるので、それを正確に文字に書くことはできません。発音するときだけ自分にあった音で声に出せばよいでしょう。福島語の初心者には、標準語に近い発音になってもかまいません。

漢字も標準語と同じように使い、必要に応じてふりがなをつけます。一部の漢字については、「^{べこ}牛」「^{ぼっこ}壊す」のように福島語に応じた読みをふりがなで示します。

2. アルファベット

漢字かなまじり表記が日常的な使用を目指すのに対し、アルファベット表記は文法的な説明がしやすくなることを目指します。例えば、「聞く」という動詞は「聞く」「聞かねえ」「聞け」、「話す」という動詞は「話す」「話さねえ」「話せ」、「読む」という動詞は「読む」「読まねえ」「読め」のように活用します。これらの動詞の活用を整理すると下の表のようになります。

	基本形 -u	否定 -ane-e	命令 -e
聞く kik-	kik-u	kik-ane-e	kik-e
話す hanas-	hanas-u	hanas-ane-e	hanas-e
読む yom-	yom-u	yom-ane-e	yom-e

このようにアルファベットで表記すると、動詞「聞く」「話す」「読む」の語幹（動詞の本体）は kik-、hanas-、yom- であること、基本形はそれらの語幹に -u がついた形であること、否定の意味は -ane-e、命令の意味は -e が表すことなどが整理できます。-u、-ane-e、-e などの要素を接尾辞といいます。語幹や接尾辞の仕組みを理解するにはアルファベット表記が必要です。（このような整理は標準語でも有効ですが、中学や高校で習う学校文法には反映されていません。）

かなの場合は、実用性を重視して「い」「え」、「し」「す」、「ち」「つ」、「じ（ぢ）」「ず（づ）」のかなを書き分けることにしましたが、アルファベット表記では伝統的な福島語の仕組みにあわせて、これらの音を書き分けません。「い」「え」の音は e、「し」「す」の音は su、「ち」「つ」の音は cu、「じ（ぢ）」「ず（づ）」の音は

zu と、区別せずに書きます。詳しくは、母音や子音の仕組みにあわせて説明します。

また、伝統的な福島語では「聞く」という語を‘キグ’と発音することがあります。しかし、‘キグ’と発音しても kigu とは表記せず、kiku と表記することになります。ひとつには、人によってキグともキクとも発音することもあり、[g] と [k] で発音に揺れがあるからです。ふたつめに、「聞かねえ」という否定形では、k の音は [k] のままキカネーと発音されるためです。つまり、活用形によっても [g] で発音したり [k] で発音したりの揺れがあります。このような [k] と [g] の揺れをいちいち反映すると文法的な説明が複雑になるので、k の発音が [g] になっても k のまま表記します。同じように、t の音が [d] になることもありますが、これも t のまま表記します。

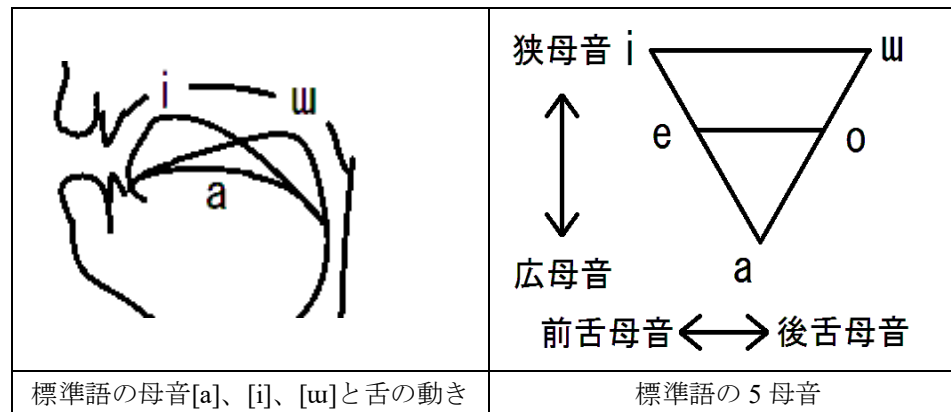
アルファベット表記について、気をつける点がもう3つあります。まず、福島語には標準語にない「つあ行」という行があります。「つあ行」の音「つあ」「つ」「つえ」「つお」の子音は、ca、cu、ce、co のように c で表記します。また、「ふ」は fu でなく hu と書きます。これは、同じ「は行」で子音の表記を h に統一するためです。最後に、「ん」は大文字の N と書きます。これは、「tani (谷)」と「taNi (単位)」のように「な行」の子音 n と「ん」を区別するためです。

3. 母音

3.1 基本母音

使われる母音の種類は a、i、u、e、o の5つで標準語と同じですが、i、u、e の発音が少し異なります。

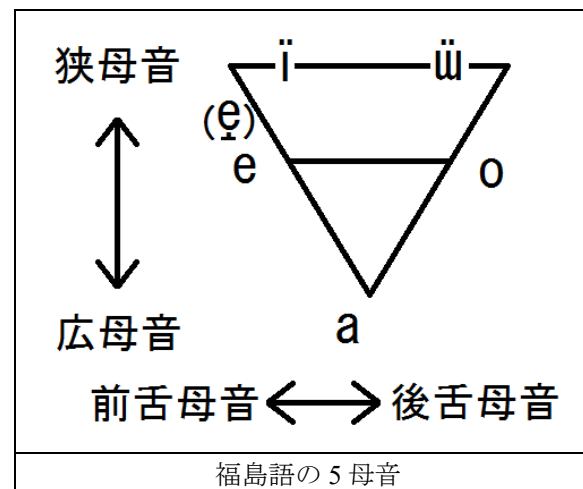
標準語の場合、口を大きく開けて舌を低い位置に置くのが母音 a です。口を狭くして舌を前寄りに高くするのが i、口を狭くして舌を後寄りに高くするのが u です。口が広がる a は広母音、口が狭まる i と u は狭母音といいます。同じ狭母音でも、舌の前寄りが高くなる i は前舌母音、後寄りが高くなる u は後舌母音といいます。母音 u は唇を丸めずに発音することが多いので、唇を丸める英語の [u] と区別して、音声記号では [ɯ] と書きます。a と i の中間的な母音が e、a と u の中間的な母音が o です。



福島語の場合、母音 a、o の発音は標準語とほぼ同じです。母音 e の発音も、「あ行」の「え」の場合をのぞけば標準語とほぼ同じです。

例) 雨^{あめ}ame [ame] おれ ore [ore]

一方、母音 i、u の発音、「あ行」の「え」の発音は、標準語と異なります。標準語と同じく福島語の5母音を図式化して示すと次のようになります。



3.2 i と u

母音 i は標準語の [i] より舌の真中寄りの部分が盛り上がった音 [i̠] になります。母音 u も標準語の [u] より舌の真中寄りの部分が盛り上がった音 [u̠] になります。舌の盛り上がりが真中に寄ることを中舌化といい、音声記号では [̠] で表します。

例) 実^みmi [m̠i] 酢^すsu [s̠u̠]

伝統的な福島語では中舌化が激しく、「し」と「す」、「ち」と「つ」、「じ」と「ず」の区別がなくなり、それぞれ su [s̠u̠]、cu [ts̠u̠], zu [z̠u̠] として発音されます。「じ」も「ず」も区別がなく「ず」に近く発音するので、福島語は「ズーズー弁」とも呼ばれます。

例) 四^しsu [s̠u̠] 酢^すsu [s̠u̠] 知^ち恵^えcue [ts̠u̠e̠] 杖^{つえ}cue [ts̠u̠e̠]

火^か事^じkazu [kaz̠u̠] 数^{かず}kazu [kaz̠u̠]

3.3 i と e

「あ行」の場合にかぎって母音 i と e の区別がなくなり、「い」も「え」も e [ɛ] として発音されます。標準語の [i] と [e] の中間的な母音です。

例) 胃^いe [ɛ] 絵^えe [ɛ] 鯉^{こい}koe [koɛ] 声^{こえ}koe [koɛ]

3.4 「あ行」の表記と発音

「あ行」の文字表記と発音は次のとおりです。左から順に、かな表記、アルファベット表記、実際の音声を示します。精密な音声は [] のカッコで音声記号として示しますが、標準語の似た音をカタカナとして併記します。

かな	アルファベット	音声
あ	a	[a]、ア
い・え	e	[ɛ]、イとエの中間
う	u	[u̠]、ウ（ややイに近い）
お	o	[o]、オ

3.5 長母音の表記

母音 a、i、u、e、o は、いずれも長母音になることがあります。長母音の表記は、かなの場合、標準語のかなづかいに準じます。アルファベットでは aa、ii、uu、ee、oo と書きます。

例) おおきい ookii [ook̠ii̠] おうさま oosama [oosama]

練習問題

この練習問題で挙げる語は、福島語と標準語で共通して使われる語です。これらの語について以下の問いに答えなさい。なお、アクセントの違いは考慮に入れないものとします。

問 1 次の語のうち、福島語で「橋（はし）」と発音上の区別がない語を 1 つ選びなさい。

ア) 蓮（はす） イ) 星（ほし） ウ) 恥（はじ） エ) 節（ふし）

問 2 次の語のうち、福島語で「染み（しみ）」と発音上の区別がない語を 1 つ選びなさい。

ア) 地味（じみ） イ) 締め（しめ） ウ) 炭（すみ） エ) 島（しま）

問 3 次の語のペアのうち、福島語で発音上の区別がなくなる語のペアを 1 つ選びなさい。

ア) ネジ／虹（にじ） イ) 数（かず）／風（かぜ）
ウ) 味（あじ）／痣（あざ） エ) 地面（じめん）／図面（ずめん）

問 4 次の語のペアのうち、福島語で発音上の区別がなくなる語のペアをすべて選びなさい。

ア) 寿司（すし）／獅子（しし） イ) 星（ほし）／腰（こし）
ウ) S（エス）／椅子（いす） エ) 灰（はい）／蠅（はえ）
オ) 癖（くせ）／串（くし） カ) 知恵（ちえ）／杖（つえ）

Lesson3 子音・アクセント

1. 子音

福島語は標準語と同系統の言語なので、標準語の「行」という概念をもとに「か行」「が行」「さ行」「ざ行」……と順に整理しながら、子音の仕組みを説明します。かな表記、アルファベット表記と音声は先の「あ行」と同じように示します。2とおりの発音がある場合は「～」の記号で2つの音声を併記します。

1.1 か行

か ka [ka ~ ga]、カ～ガ
き ki [ki ~ gi]、キ～ギ（ややク～グに近い）
く ku [kü ~ gü]、ク～グ（ややキ～ギに近い）
け ke [ke ~ ge]、ケ～ゲ
こ ko [ko ~ go]、コ～ゴ

「か行」の子音はkで標準日本語とほぼ同じです。

例) 紙^{かみ}kami [kami] 米^{こめ}kome [kome] 三個^{さんこ}saNko [sanjo]

ただし、母音に挟まれたkの音は [g] で発音されることが多いです。

例) 赤い^{あか}akae [aqa] たこ tako [tago]

母音に挟まれても、「鹿」suka [süka] のように [k] のまま発音されたり、「聞く」kiku [kikü ~ kïkgü] のように [k] と [g] の間で発音が揺れたりすることもあるので、必ず [g] で発音されるわけではありません。[g] で発音されることが多いとだけ覚えておきましょう。

練習問題 1

次に挙げる語のうち、kの音が [g] で発音されうるものをすべて選びなさい。

- ア) 明かり (akari) イ) 亀 (kame) ウ) 裸 (hadaka)
エ) 天気 (teNki) オ) 鴨 (kamo)

1.2 が行

が ga [ga ~ ŋa]、ガ～ンガ
ぎ gi [gi ~ ŋi]、ギ～ンギ（ややグ～ングに近い）
ぐ gu [gü ~ ŋü]、グ～ング（ややギ～ンギに近い）
げ ge [ge ~ ŋe]、ゲ～ンゲ
ご go [go ~ ŋo]、ゴ～ンゴ

「が行」の子音はgで標準日本語とほぼ同じです。語頭では [g] で発音されます。

例) ごみ gomi [gomi] ガス gasu [gasü]

語頭以外のgの音は鼻に抜ける [ŋ] で発音されます。この発音は、標準語で「鼻濁音」と呼ばれるものと同じです。母音間のkが [g] になる場合とちがって、発音の揺れはほぼありません。また、母音間でなく「ん」の音の後でも [ŋ] と発音されます。

例) かご kago [kaŋo] 鍵^{かぎ}kagi [kaŋi] さんご [saŋgo]

練習問題 2

次に挙げる語のうち、gの音が鼻に抜ける音の [ŋ] で発音されるものをすべて選びなさい。

- ア) 黄金 (kogane) イ) 考え (kaNgae) ウ) 柄 (gara)
エ) 下駄 (geta) オ) 卵 (tamago)

1.3 さ行

さ sa [sa]、サ
し・す su [sü]、ス（ややシに近い）
せ se [se]、セ
そ so [so]、ソ

「さ行」の子音はsで標準日本語とほぼ同じです。

例) 笹^{ささ}sasa [sasa] みそ miso [miso]

ただし、標準日本語の「し」と「す」にあたる音が区別なく su [sü] として発音されます。

例) 四^しsu [sü] 酢^すsu [sü]

標準日本語の「しい」にあたる音も suu [süü] として発音されます。

例) しいたけ [süütage]

1.4 ざ行

ざ za [za]、ザ

じ (ぢ)・ず (づ) zu [zü]、ズ (ややジに近い)

ぜ ze [ze]、ゼ

ぞ zo [zo]、ゾ

「ざ行」の子音は z で標準日本語とほぼ同じです。

例) ざる^ざzaru [zarü] 風^{かぜ}kaze [kaze]

ただし、標準日本語の「じ」と「ず」にあたる音が区別なく zu [zü] として発音されます。

例) 火事^{かじ}kazu [kazü] 数^{かず}kazu [kazü]

標準日本語の「じい」にあたる音も zuu [züü] として発音されます。

例) じいさま [züüsama]

1.5 た行

た ta [ta~da]、タ〜ダ

て te [te~de]、テ〜デ

と to [to~do]、ト〜ド

「た行」の子音は t で標準日本語とほぼ同じです。標準語の「ち」「つ」にあたる音は、福島語では「つぁ行」と見なして「た行」には含めません。

例) 竹^{たけ}take [tage] 年^{とし}tosu [tosü]

「か行」の場合と同じように、母音に挟まれた t の音は [d] で発音されることが多いです。ただし、母音に挟まれても [d] にならない場合もあるので、[d] で発音されることが多いとだけ覚えておきましょう。

例) 畑^{はたけ}hatake [hadage] 糸^{いと}eto [ɛdo]

練習問題 3

次に挙げる語のうち、t の音が [d] で発音されうるものをすべて選びなさい。

ア) 音 (oto) イ) 手前 (temae) ウ) 軍手 (guNte)

エ) 表 (omote) オ) 綿 (wata)

1.6 だ行

だ da [da]、ダ

で de [de]、デ

ど do [do]、ド

「だ行」の子音は d で標準日本語とほぼ同じです。

例) 誰^{だれ}dare [dare] 井戸^{いど}edo [ɛdo]

1.7 つぁ行

つぁ ca [tsa]、ツァ

ち・つ cu [tsü]、ツ (ややチに近い)

つえ ce [tse]、ツェ

つお co [tso]、ツォ

標準日本語では「つぁ」「つえ」「つお」という音はあまり使いませんが、福島語ではよく使います。そこで「つぁ行」という行を設定して、「つぁ行」の子音を c で表します。

例) おんつあま (おじさん) oNcama [ontsama]

くんつえ (ください) kuNce [küntse]

ごっつおう (ごちそう) goccoo [gottsoo]

標準日本語の「ち」「つ」にあたる音は区別なく cu [tsü] として発音されます。この音は「つぁ行」の音と見なします。

例) 知^{ちえ}恵cue [tsüē] 杖^{つえ}cue [tsüē]

「つぁ行」に対応する濁音の行は「ざ行」です。標準語に準じて、かなでは「ぢ」「づ」と書きますが、アルファベットでは zu と書き、[zü] と発音します。

例) 悪^{わる}知^{ちえ}恵waruzue [warüzüē] つづく cuzuku [tsüzügü]

「か行」「た行」の場合と同じように、母音に挟まれた c の音は [z] で発音されることが多いです。ただし、母音に挟まれても [z] にならない場合もあるので、[z] で発音されることが多いとだけ覚えておきましょう。

例) 八^{はち}hacu [hazü] いつ ecu [ezü]

練習問題 4

次に挙げる語のうち、c の音が [z] で発音されうるものをすべて選びなさい。

ア) 狐 (kicune) イ) 夏 (nacu) ウ) ごっつおう (goccoo)

エ) おんつあま (oNcama) オ) 月 (cuki)

1.8 な行

な na [na]、ナ

に ni [ni]、ニ (ややヌに近い)

ぬ nu [nü]、ヌ (ややニに近い)

ね ne [ne]、ネ

の no [no]、ノ

「な行」の子音は n で標準日本語とほぼ同じです。

例) なす nasu [nasü] 羽 hane [hane]

1.9 は行

は ha [ha]、ハ

ひ hi [çi]、ヒ (ややフに近い)

ふ hu [xü]、フ (ややヒに近い)

へ he [he]、ヘ

ほ ho [ho]、ホ

「は行」の子音はアルファベットで h と書きます。「ふ」の子音は、標準日本語とちがって、唇を丸めない音 ([x]) になることが多いですが、標準日本語と同じように発音しても問題ありません。その他の「は行」の音は標準日本語とほぼ同じです。

例) 花^{はな}hana [hana] 暇^{ひま}hima [çima] 筆^{ふで}hude [xude] へた heta [heda]

1.10 ば行

ば ba [ba]、バ

び bi [bi]、ビ (ややブに近い)

ぶ bu [bü]、ブ (ややビに近い)

べ be [be]、ベ

ぼ bo [bo]、ボ

「ば行」の子音は b で標準日本語とほぼ同じです。

例) バス basu [basü] 壁^{かべ}kabe [kabe]

1.11 ぱ行

ぱ pa [pa]、パ

ぴ pi [pi]、ピ (ややプに近い)

ぷ pu [pü]、プ (ややピに近い)

ぺ pe [pe]、ペ

ぽ po [po]、ポ

「ぱ行」の子音は p で標準日本語とほぼ同じです。

例) パセリ paseri [paseri] しっぷ suppu [süppü]

1.12 ま行

ま ma [ma]、マ

み mi [mi]、ミ (ややムに近い)

む mu [mü]、ム (ややミに近い)

め me [me]、メ

も mo [mo]、モ

「ま行」の子音は m で標準日本語とほぼ同じです。

例) 豆^{まめ}mame [mame] 今^{いま}ema [ɛma]

1.13 や行

や ya [ja]、ヤ

ゆ yu [jü]、ユ

よ yo [jo]、ヨ

「や行」の子音はアルファベットで y と書き、標準日本語とほぼ同じです（発音記号では [j] と書きます）。

例) 山^{やま}yama [jama] 冬 huyu [xüjü]

1.14 ら行

ら ra [ra]、ラ

り ri [ri]、リ

る ru [rü]、ル

れ re [re]、レ

ろ ro [ro]、ロ

「ら行」の子音は r で標準日本語とほぼ同じです。

例) りす [risü] 風呂 [xüro]

1.15 わ行

わ wa [wa]、ワ

「わ行」の音は「わ」のみで、標準日本語とほぼ同じです。

例) 綿^{わた}wata [wada] 泡^{あわ}awa [awa]

1.16 ん

ん N [m ~ n ~ ŋ ~ N]、ン

「ん」の音はアルファベットで N と書きます。場合によって様々な音で発音されますが、そのことを含めて、標準日本語とほぼ同じです。

例) さんま saNma [samma] 三個^{さんこ} [saŋko] 缶^{かん}kaN [kan]

1.17 拗音

__や __ya [ja]、__ヤ

__ゆ __ya [jü]、__ユ

__え __ye [je]、__エ

__よ __yo [jo]、__ヨ

標準日本語で小さな「や」「ゆ」「よ」で表される拗音は、福島語でも同じように表記します。発音も標準日本語とほぼ同じです。

例) 脈^{みやく}myaku [mjagü] しょうゆ syooyu [sjoojü]

ただし、福島語では、「ちえ」「にえ」など「え」で表される拗音も多く使われます。

例) 忘^{わす}っちえ (忘れて) wasuccje [wasütttsje]

折^おんにえ (折れない) oNnye [onnje]

2. アクセント・イントネーション

標準語では、「雨」を‘アメ’と読み、「飴」を‘アメ’と読むように、語に決まった音の高低の型があります。このような語ごとに決まった音の高低の型をアクセントといいます。しかし、福島語には、そのようなアクセントの型がありません。文脈ごとに様々な音の高低が実現します。例えば、文脈によって、「雨」は‘アメ’とも‘アメ’とも‘アメ’とも‘アメ’とも発音されます。「飴」も同様です。このように文脈によって異なる音の高低をイントネーションといいます。

福島語には、語ごとに決まったアクセントの型はありませんが、文脈によって異なるイントネーションの変化があるということになります。ただし、どの文脈でどのイントネーションが使われるかは解明されていないことが多く、今後の研究を進める必要があります。

福島語と同じくアクセントの型を持たないことばは、南東北から北関東、九州の宮崎県や熊本県、佐賀県、福井市周辺など全国のいくつかの地域に分布しています。韓国語の標準語もアクセントの型を持たないことばです。アクセントの型を持たないことばが母語の人は、自分の母語と同じように音の高低をつけて発音すると福島語らしくなるでしょう。

東京や大阪など、アクセントの型が決まっていることばが母語の人は、福島語のイントネーションを習得するのが難しいようです。福島語のイントネーションの仕組みは解明されていないので教えるのが難しいのですが、まずは福島語で話す人の真似をしてみるのがよいでしょう。

Lesson4 宿題忘っちょえ、怒らっちょ。

- 東京で記者をしていた亮太は転勤で故郷の福島に帰ってきました。久しぶりにじいちゃんとばあちゃんの家を訪ねて酒を飲んでいます

亮太 : この 酒 んめえなあ。

kono sake Nmee=naa.

じいちゃん : 一緒に 飲むのも 久しぶりだな。

issy=ni nomu=no=mo hisasuburi=da=na.

おめえ 高橋先生 おべ 覚えてっか？

omee takahasuseNsee obeetek=ka?

亮太 : うん。おれ よく 宿題 忘れっちょえ

uN. ore yokku shukudae wasuccye

怒らっちょなあ。

okoraccya=naa.

ばあちゃん : あんたら 酒も ほどほどに しな。

aNtara sake=mo hodohodo=ni suna.

おら 心配だ。

ora suNpae=da

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた **k**, **t**, **c** の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります。

■ 単語と表現

福島語では「この」「酒」「飲む」など標準語と共通する単語が多く使われていて、標準語と同じ単語も含めて福島語の仕組みが成り立っています。ですが、標準語と同じ単語はあらためて紹介せず、会話例に出てきた単語や表現のうち、福島語に特徴的なものだけを整理しておくことにします。

んめえ Nmee ‘うまい’

忘っちょ wasuccye ‘忘れて’

おめえ omee ‘お前’

怒らっちょ okoraccya ‘怒られた’

覚（おべ）えてっか obeetek=ka

おら ora ‘俺は’

‘覚えているか’

■ アルファベット表記について

この授業では、音や文法の説明をするときにアルファベット表記を使います。アルファベット表記をするときは、要素の切れ目がわかりやすいように、助詞などを = の記号で分けて表記することになります。

■ 世代差について

福島語は標準語化が進んでいます。伝統的な福島語の特徴のうちいくつかは、高年層の話者しか保持していません。一方で、中年層以下にしか見られない特徴もいくつかあります。この授業では、高年層に関する内容を【高】、中年層以下に関する内容を【中】、両方に関する内容を【高・中】と示すことにします。この会話例では、じいちゃんとばあちゃんが高年層、亮太が中年層の話者です。

1. 代名詞【高・中】

福島語では自分のことを指す1人称代名詞に「おれ」を使います。標準語の「おれ」は男性が使うことばですが、福島語では男性も女性も「おれ」を使います。「おれ」に助詞「は」がつくと、「おれは」が縮まって「おら」になることがあります。次の例の「おら」は「おれは」の意味です。

おら 心配だ。

標準語化が進む中年層以下の若い世代では、女性は「おれ」でなく「わたし」を

使うのが一般的です。

相手を指す2人称代名詞には「あんた」「おめえ」があります。「おめえ」は「あんた」よりもぞんざいな表現で、通常は目下の相手に使われます。

	単数	複数
1 人称	おれ*	おれら、おら
2 人称	あんた おめえ (ぞんざい)	あんたら おめえら (ぞんざい)

* 助詞「は」がつくと「おら」になることがある。中年層以下の女性は「わたし」を使う。

3人称の代名詞は特にありません。「高橋先生」のように名前などで呼ぶか、「あの人」「この人」のように指示語を使って呼びます。2人称の場合も、相手を名前などで呼ぶことが多いです。例えば、会話例の「おめえ」は「亮太」という名前に置き換えることもできます。

亮太 高橋先生 ^{おべ}覚えてっか？

代名詞でなく名前や指示語で2人称、3人称の人物を表すところは標準語と似ています。

練習問題 1

次に示す文は、上に挙げた会話例の続きで、じいちゃんのしゃべったものです。これらの文のうち1人称代名詞が使われているものをすべて選びなさい。

- ア) 大丈夫だ。おれも亮太も、ほどほどにする。
- イ) 高橋先生は、おめえの担任だったな。
- ウ) 先週、スーパーでたまたまあの人見かけたんだ。
- エ) おら、久しぶりだからあいさつしたかったんだ。
- オ) でも、人混みひどくて、先生見失っちゃった。

2. 複数【高・中】

複数を表すときには「ら」を使います。標準語のように「たち」を使うことはあまりありません。1人称代名詞の「おれ」に「ら」がつくと「おれら」が縮まっ

て「おら」になることがあります。「おら」には「おれは」が縮まったものと「おれら」が縮まったものの両方があることになります。どちらの意味かは文脈で判断されます。

「ら」は人間を表す名詞につきます。「机ら」「大根ら」のように無生物につくことはありません。また、複数だからといって必ず「ら」がつくとは限りません。「ら」がつかないこともあります。このような「ら」の特徴は標準語と同じです。

お客さん 100人 来た。 / お客さんら 100人 来た。

ただし、標準語の「ら」は「お客さん」のように敬意が入る人物には使いにくいようですが、福島語の「ら」は敬意が入る人物にも使うことができます。

練習問題 2

次に示す文のうち、[] で示した名詞に複数を表す「ら」をつけられるものをすべて選びなさい。文の内容にあわせて考えること。

- ア) 薬局で [マスク] 何枚も買ってきた。
- イ) [五十嵐さん]、家族で旅行から帰ってきた。
- ウ) この店、[バイトの人] 全員忙しそうだ。
- エ) 二瓶さん夫婦は [子ども] ひとりだけいる。
- オ) 暖かくなって、あっちでもこっちでも [花] 咲いた。

3. 基底形と表層形【高・中】

福島語の動詞や形容詞の活用は基本的に標準語と似ています。ですが、活用によって生まれた形に音韻規則が適用されて音が変わることがあります。

例えば、標準語の「うまい」にあたる Nmae (んまい) という語は、音韻規則が適用されて Nmee (んめえ) という形になります。また、obeeteru=ka (覚えてるか) という表現は、実際には obeetek=ka (覚えてっか) という形になります。この本では、音韻規則が適用される前の形を「基底形」、適用された後の形を「表層形」と呼んで区別します。

福島語にはたくさんの音韻規則があるので、今後の授業で少しずつ説明していきます。

基底形		表層形
Nmae	音韻規則 ae → ee	Nmee
obeeteru=ka	音韻規則 ru=k → k=k	obeetek=ka

4. 音韻規則 ae → ee 【高・中】

形容詞の基本形の語尾が ae の場合、ae → ee という音韻規則が適用されます。

Nmae → Nmee (んめえ) takae → takee (たけえ) ‘高い’

福島語と同じような音韻規則は日本の様々な地域のことばにあります。‘高い’ ことを「たけえ」と言うのを聞いたことがある人は多いでしょう。

なお、日本の他地域のことばでは、hiroj → hiree (ひれえ) ‘広い’、samui → samii (さみい) ‘寒い’ のように oi → ee、ui → ii という音韻規則がみられることがあります。福島語では warue → warii (わりい) ‘悪い’ のような一部の例外的な語を除いて、基底形の oe、ue は oe、ue のまま表層形になります。

hiro^oe (広い) samu^e (さむい)

練習問題 3

例にならって、ア) ~ ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘赤い’ akae → あけえ ア) ‘長い’ nagae →
イ) ‘少ない’ sukunae → ウ) ‘硬い’ katae →

5. 音韻規則 ru=k → k=k、ru=t → t=t 【高・中】

動詞の基本形の語尾が ru の場合、そこに k、t ではじまる助詞がつくと ru=k → k=k、ru=t → t=t という音韻規則が適用されて ru の音が k、t の音に同化します。基本形の語尾が ru の動詞は「覚(おべ)える」「晴れる」など多数あります。

obeeteru=ka → obeet^ok=ka (覚えてっか)

hareru=to omoo → haret=to omoo (晴れっと思う)

名詞の「こと」「とき」「とこ(ところ)」がつくときも、「晴れっとき」のようにこの規則が適用されることがあります。この規則が適用される助詞、名詞には次のようなものがあります。

k ではじまる 助詞・名詞	疑問「か」、理由「から」、逆接「けんちょ、けんと、けど」、名詞「こと」
t ではじまる 助詞・名詞	引用「と」、条件「と」、名詞「とき」、名詞「とこ」

練習問題 4

例にならって、ア) ~ ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘寝るか’ neru=ka → ねっか ア) ‘掘るから’ horu=kara →
イ) ‘見ると’ miru=to → ウ) ‘座るとき’ suwaru=toki →

6. 音韻規則 ret → ccy 【高・中】

動詞の様々な活用形のなかで ret という音連続が生じた場合、ret → ccy という音変化が生じます。「忘れる」など基本形が「れる」で終わる動詞の場合と、「怒られる」のような受身の場合にこの音韻規則がよく適用されます。

wasurete → wasuccye (忘っちえ)

okorareta → okoraccya (怒らっちや)

この音韻規則は福島語に特徴的なので、これを覚えるだけで福島語らしい話し方ができるようになります。

練習問題 5

例にならって、ア) ~ ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘暴れた’ abareta → あばっちゃ ア) ‘とられた’ torareta →
イ) ‘見られて’ mirarete → ウ) ‘倒れてる’ taoreteru →

Lesson5 おれんとこ男前に撮れよ。

● 亮太はデイサービスの施設に取材に来ました。元気なお年寄りがたくさんいます。亮太は利用者の昭夫さんと福島語で話しています。

亮太 : 昭夫さんは よく デイサービス

akiosaN=wa yokku deisaabisu

利用してんですか？

riyoo=siteN=desu=ka

昭夫さん : 去年から 毎週 来てんな。

kyoneN=kara. maesyuu kiteN=na

: 職員さんら いい 人で 居心地 いいんだ。

syokueNsaNra ee hito=de egokoku ee=N=da.

亮太 : あら 昭夫さん いい 笑顔なこと。

ara akiosaN ii egao=da=koto.

写真 撮っても いいですか。

syasiN tottemo ii=desu=ka.

昭夫さん : いいぞ。 おれんとこ 男前に 撮れよ。

ee=zo. ore=Ntoko otokomae=ni toreyo.

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた **k**, **t**, **c** の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

あら ara ‘あれ’ (感動詞)

んとこ=Ntoko ‘を’ (助詞)

1. ズーズー弁ではない世代【中】

福島語 50 音図で説明したとおり、伝統的な福島語では「い・え」「し・す」「ち・つ」「じ・ぢ・ず・づ」の発音が区別されません。しかし、標準語化が進んだ若い世代ではこれらの音を区別します。

この会話例では、昭夫さんは伝統的な発音どおりにこれらの音を区別していません。一方、亮太はこれらの音を区別しています。亮太の発話では、これらの音を区別する形で i と e, si と su などを書き分けています。

写真 撮っても いいですか。

syasiN tottemo ii=desu=ka.

これ以降の会話例でも亮太は中年層話者としてこれらの音を区別して発音します。

2. 母音に挟まれても [g], [d], [z] にならないとき【高・中】

文字と発音に関連して説明したとおり、福島語では、母音に挟まれた **k**, **t**, **c** の音が [g], [d], [z] で発音されることが多いです。ただし、次のような環境の 3 音目の **k**, **t** は母音に挟まれても [g], [d] になることはありません。また、**c** はこのような環境の 3 音目にあらわれることはありません。

k, s, c, h, p (無声子音)	i, u (狭母音)	k, t	a, e, o (広母音)
1 音目	2 音目	3 音目	4 音目

利用してんですか？

来てんな

人

riyoo=siteN=desu=ka

kiteN=na

hito

はた（旗） ぶた（豚） ふた（蓋）

hata [d] buta [d] huta [t]

練習問題 1-1

次に挙げる語のうち、k の音が [g] で発音されないものをすべて選びなさい。

- ア) 明かり (akari) イ) 光 (hikari) ウ) 抜ける (nukeru)
エ) 叱る (sukaru) オ) 力 (cukara) カ) 深い (hukae)

練習問題 1-2

次に挙げる語のうち、t の音が [d] で発音されないものをすべて選びなさい。

- ア) ふとん (hutoN) イ) 形 (katacu) ウ) 見た (mita)
エ) 硬い (katae) オ) 下 (suta) カ) 来た (kita)

3. 主語と目的語【高・中】

標準語では、主語を「が」、目的語を「を」で示しますが、福島語では「が」「を」という格助詞をあまり使いません。使っても間違いということはありませんが、特に「を」を使うことはほとんどありません。

「職員さんらがいい人だ。」「看板が倒れた。」のように主語だけが必要な文では、「が」がなくとも「職員さんら」や「看板」が主語であることがわかります。

職員さんら いい 人だ。 看板 倒っちゃ。

[復習ポイント]

taoreta は ret → ccy という音韻規則が適用されて taoccy (倒っちゃ) になります。(Lesson4)

「あの人が看板を倒した。」のように、主語と目的語の両方がある他動詞文では、通常、人間や動物などの生物が主語、無生物が目的語です。生物か無生物かの違いで主語と目的語が区別されるので、「が」「を」は要りません。

あの人 看板 倒した。

無生物が他動詞文の主語になることは基本的にありません。「風が戸を壊した。」のような他動詞文は「風で戸壊っちゃ‘壊れた’。」と自動詞文で言ったほうが自然です。

生物が他動詞文の目的語になることはときどきあります。何も助詞をつけないと主語と誤解されることがあるので、生物が目的語になるときは「んところ」をつけて目的語であることを明示することがあります。

カメラで おれんところ 撮る。

何も助詞をつけずに「おれ 撮る」と言うのと「おれ」が主語のように感じられますが、「おれんところ 撮る」と言うのと「おれ」が目的語であることがはっきりします。ただし、Lesson4 の会話例の「おめえ、高橋先生覚えてっか？」のように文脈から目的語が明らかな場合には「んところ」をつける必要はありません。

「んところ」は話者によっては「のところ」「ところ」と言うこともあります。中年層以下の若い話者は「のこと」ということもあります。

カメラで おれのこと 撮る。

練習問題 2

次の福島語の文について、主語と目的語はどの語か答えなさい。目的語がない場合は「ない」と答えること。

例) 田中さん、宝くじあてた。 主語は「田中さん」、目的語は「宝くじ」

ア) ばあちゃん、台所で煮物作ってる。

イ) この車、おれ、夏休みに買ったんだ。

ウ) 子どもら、プールで元気に騒いでる。

エ) じいちゃん、おめえんところ待ってたぞ。

練習問題 3

次の標準語の文を「が」「を」を使わず、必要に応じて「んところ」を使った福島語の文に直しなさい。これまでの単元で習った内容も反映すること。

例) 私を覚えているか？→おれんところ覚えてっか？

ア) じいちゃんが酒を飲んでる。

イ) ばあちゃんが亮太を見てる。

ウ) 知美が私を忘れている。

4. 音韻規則 ru=m, n, g → N=m, n, g 【高・中】

動詞の基本形の語尾 ru に m、n、g ではじまる助詞がつく場合、ru の音が N に交替します。

aru=mee → aN=mee あんめえ (あるまい)

kiteru=na → kiteN=na 来てんな (来てるな)

kiru=gana → kiN=gana 着んがな (着るもの)

名詞の「もん (もの)」がつく場合も「あんもんだ “あるものだ”」のようにこの規則が適用されることがあります。この規則が適用される助詞、名詞には次のようなものがあります。福島語に特徴的な助詞については、右のページのコラムで説明をします。

m ではじまる助詞・名詞	否定推量「めえ」、名詞「もん」
n ではじまる助詞	終助詞「な」、目的「に」、準体「の」
g ではじまる助詞	準体「がな、がん」

5. 音韻規則 ru=N → N 【高・中】

動詞の基本形の語尾 ru に準体助詞「の」の変化した N の音が続くとき、ru=N の音連続はまとめて N になります。

riyoo=siteru=N=desu=ka → riyoo=siteN=desu=ka

利用してんですか？

練習問題 4

例にならって、ア) ~ ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘晴れるな’ hareru=na → はれんな

ア) ‘起きるの’ okiru=no →

イ) ‘寝るもんだ’ neru=moN=da →

ウ) ‘降るんだ’ huru=N=da →

コラム 福島語の助詞

音韻規則に関連して Lesson4 と Lesson5 で登場した助詞のうち、福島語に特有のものを紹介します。

逆接「けんちょ」「けんと」

逆接の接続助詞で、標準語の「けど」に相当します。高年層では「けんちょ」、中年層では「けんと」を使う人が多いです。

晴れてっけんちょ／晴れてっけんと 寒い。(晴れてるけど)

目的「に」

目的を表す助詞で標準語の「のに」「ために」に相当します。

新聞 読むに メガネ かけた。(読むのに)

準体「がな」「がん」

名詞相当の機能を持つ助詞で、物を指し示します。標準語の「の」「もの」「やつ」に相当します。

なにか 書くがな／書くがん 欲しい。(書くもの)

Lesson6 ばあちゃんさままでおる買ってきた。

● 亮太と昭夫さんが話していると、昭夫さんのお友達の吉江さんがやってきました。

吉江さん： 昭夫さん あんた ままでおる 食うかい？

akiosaN aNta mamadooru kuu=kæ?

昭夫さん： あら どうしたんだい 吉江さん。

ara doosutaNdae yosuesaN.

吉江さん： 郡山から 来た 孫に もらったんだ。

kooriyama=kara. kita mago=ni moratta=N=da

「ばあちゃんさ 買って きたんだ」って。

baacyaN=sa katte. kita=N=da=tte.

昭夫さん： あはは いい お孫さんだない。

ahaha. ee omagosaN=da=nae.

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた **k**, **t**, **c** の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

ままでおる mamadooru	かい ‘～ですか／～ますか’ (助詞)
‘ままでおる (お菓子の一種)’ (名詞)	だい ‘～ですか／～ますか’ (助詞)
食う kuu ‘食べる’ (動詞)	ない ‘～ですね／～ますね’ (助詞)

ままでおるとはバターを加えたミルク味の洋風のあんをやわらかい生地で包ん

だお菓子です。福島県中部の郡山市の銘菓で、福島県内のあちこちで売っています。

標準語の「食う」は「食べる」にくらべてぞんざいな言い方ですが、福島語では「食べる」という語をあまり使わないので「食う」が特にぞんざいな言い方というわけではありません。ただ、福島語自体がくだけた場面で話すときのことばなので、「食う」もくだけた場面で使われるのが普通です。

1. 格助詞「に」と「さ」

標準語の「に」にあたる助詞として、福島語では「に」「さ」の2つの格助詞が使い分けられます。物のやりとりを表す場合、やりとりの受け手は「さ」、与え手は「に」で表されます。

ばあちゃんさ 買ってきた。《ばあちゃん＝授与の受け手》

孫に もらった。《孫＝授与の与え手》



画像出典：いらすとや (<https://www.irasutoya.com/>)

もののやりとりに限らず、動作の向かう先を表す場合には「さ」が使われます。また、移動の目的、存在の場所を表す場合にも「さ」が使われます。

東京さ 着いた。 親さ しゃべった。《動作の向かう先》

仕事さ 行った。 映画 見さ 出かけた。《移動の目的》

台所さ ある。《存在の場所》

一方、受身文や「～てもらう」という文の動作主、時間を表す場合には「さ」ではなく「に」を使います。「～になる」という表現でも「に」を使います。

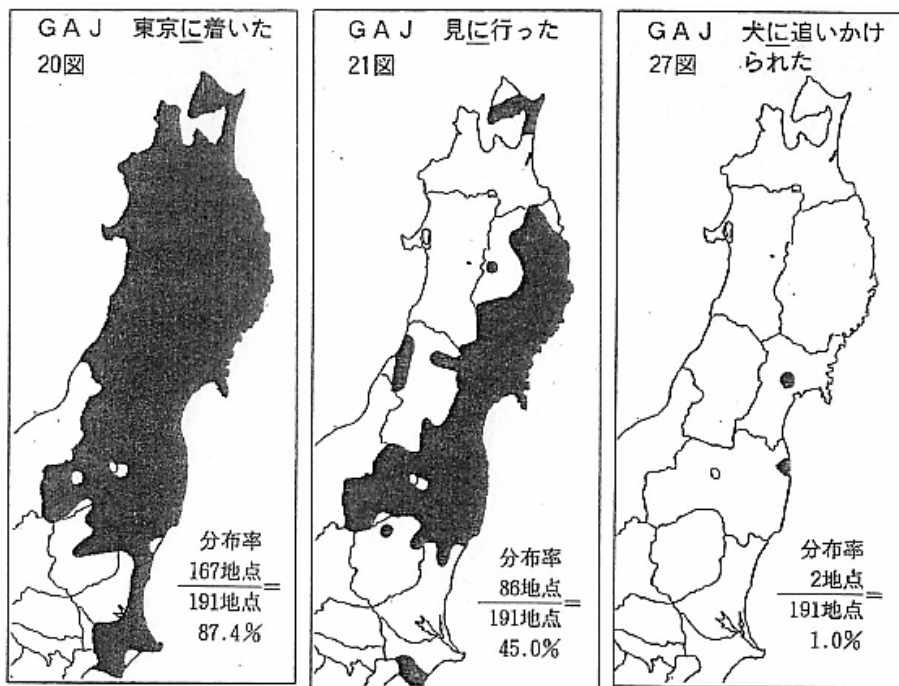
犬に 追っかけらっちゃ。‘追いかけられた’《受身文の動作主》

先生に ほめてもらおう。《「～てもらう」文の動作主》

7時に 起きる。《時間》

公務員に なる。《～になる》

コラム 「さ」の地域差



出典：『方言学的日本語史の方法』（小林隆、2004、ひつじ書房）

「さ」は東北地方で広く使われる格助詞ですが、地域によって使われる意味に違いがあります。この図は「に」の意味で「さ」を使う地域を黒く塗ったものです。「東京に着いた」という文では東北地方のほとんどの地域で「さ」が使われますが、「見に行った」という文で「さ」を使うのはほぼ太平洋側に限られます。「犬に追いかけられた」という文で「さ」を使う地域はわずかです。

このように、「に」と「さ」の使い分けについては、地域差や個人差がありますが、この授業では福島県北部出身の白岩の観察をもとに、この Lesson6 で説明したように「に」と「さ」を使い分けることにします。

練習問題 1

この授業で示した福島語の規則にしたがうと、次の文では格助詞「に」「さ」のどちらを使うのが適切か答えなさい。

- 1) 帰る時間 {に／さ} なった。
- 2) 泥棒 {に／さ} 財布とらっちゃ。
- 3) じいちゃんは、戦争のとき、台湾 {に／さ} いた。
- 4) ばあちゃん、買い物 {に／さ} 出かけた。
- 5) 親戚の人 {に／さ} 稲刈り手伝ってもらった。
- 6) おれ、亮太 {に／さ} プレゼント渡した。
- 7) おれ、亮太 {に／さ} プレゼントもらった。
- 8) 先生 {に／さ} 怒らっちゃ。
- 9) 5時 {に／さ} 家 {に／さ} 戻ってきた
- 10) 岩瀬書店 {に／さ} 本買い {に／さ} 行った。

2. 丁寧の終助詞「い」【高】

現在の福島語では標準語的な「です」「ます」も使われますが、福島語本来の丁寧表現として終助詞「い」も使われます。「い」は「です」「ます」よりくだけた表現で、年上の家族や親しい近所の人などに対して使います。「い」は単独で使われることはなく、終助詞「か」「な」「ぞ」「わ」とともに「かい」「ない」「ぞい」「わい」という形で使うのが普通です。

ままだおる 食うかい？ ‘食べますか？’

いい お孫さんだない。‘いいお孫さんですね’

いい天気だぞい。‘いい天気ですよ’

今日は 寒いわい。‘今日は寒いですよ’

終助詞「ね」「よ」に「い」がついて「ねい」「よい」になることはありません。そのかわりにそれぞれ「ない」、「ぞい・わい」を使います。

疑問詞疑問文の文末の「だ」に「い」がつくこともあります。疑問詞疑問文以外の「だ」に「い」がつくことはありません。

どうしたんだい？（どうしたんですか？）

「です」「ます」と違って文末でだけ使われるのが「い」の特徴です。文末に「い」があれば、文末以外で丁寧表現を使う必要はありません。中年層以下では標準語の「です」「ます」を使うことが多いですが、中年層話者でも高年層話者と話すときには「い」を使うことがあります。

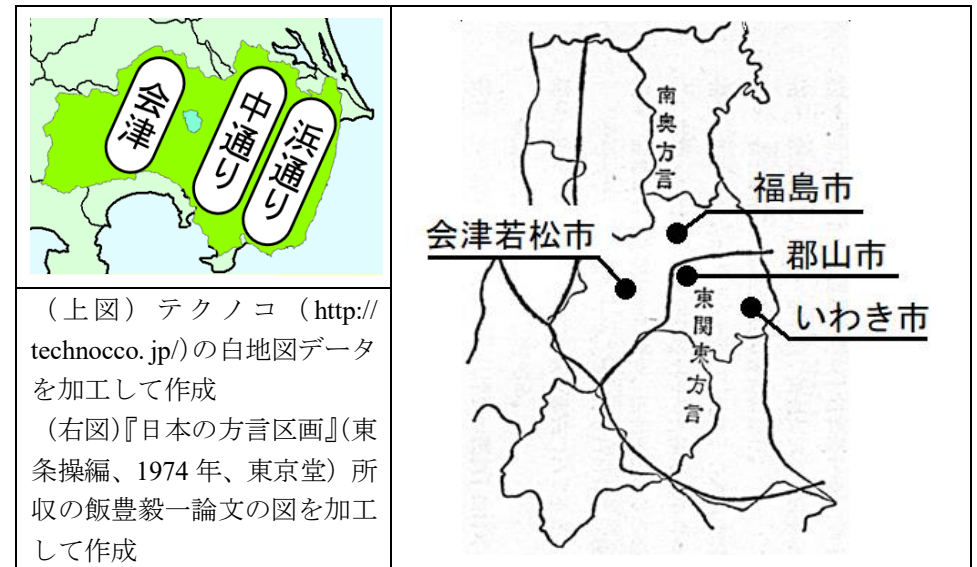
練習問題 2

次に示す標準語の文を、「です」「ます」を使わずに、終助詞「い」を使って福島語の丁寧な文に直しなさい。これまでの単元で習った内容も反映すること。

例) お茶、飲みますか？→お茶、飲むかい？

- 1) いい天気ですね。
- 2) コーヒー、ありますか？
- 3) いつ寝たんですか？
- 4) この団子、おいしいですよ。
- 5) 吉江さんは新年会に行きましたか？
- 6) 明日は出張ですから、6時に起きますね。

コラム 福島県内の方言差



福島県は東京都、千葉県、神奈川県がすっぽり中に収まってしまいうくらいの広大な面積を持つ県で、太平洋沿いの浜通り、阿武隈山地を挟んで内陸の中通り、さらに奥羽山脈を越えて地理的に日本海側にあたる会津の3つの地域に分かれます。浜通りの中心都市がいわき市、中通り北部の中心都市が福島市、中通り中南部の中心都市が郡山市、会津の中心都市が会津若松市です。県庁所在地は福島市ですが、人口は郡山市、いわき市のほうがやや多いです。

この本の冒頭で説明したように、県内のことばの区画のしかたは場合によって異なりますが、南に行くほど関東的、北に行くほど東北的な特徴が強くなります。右上の図に示したのは区画案のひとつです。中通り中南部、浜通り南部のことばは栃木県、茨城県のことばと共通性が高いので「東関東方言」に区画されています。

この授業では福島市周辺のことばについて学習しますが、同じ福島県内でも様々なことばの違いがありますので、違いに気づいた場合は、その違いを楽しんでみてください。

Lesson7 スマホの使い方わかんねえな。

● 吉江さんがスマホを取り出します。

吉江さん： おれの 孫の 写真 見っかい？

ore=no mago=no syasuN mik=kae?

この スマホん なかさ 入ってんだ。

kono sumaho=N nakka=sa haetteN=da.

昭夫さん： おお スマホかい。

oo sumaho=kkae.

おら 使い方 わかんねえな。

ora cukaekatta wakkaNnee=na.

吉江さん： おら 孫に おせてもらったんだ。

ora mago=ni osette moratta=N=da.

あれ？ でも 画面さ なんにも 出ねえ。

are? demo gameN=sa naNnimo denee.

亮太： 吉江さん ここ 押さねえと、

yosiesaN koka osaneeo

電源 入らないんで ないですか？

deNgeN haiNnai=N=de nai=desu=ka?

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた **k**, **t**, **c** の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

おせる oseru ‘教える’ (動詞)

1. 動詞の否定形【高・中】

動詞を否定形にするとき標準語では「ない」を使いますが、福島語では「ねえ」を使います。

押さねえ ‘押さない’ 出ねえ。 ‘出ない’

過去否定形は「ねかった」を使います。

押さねかった ‘押さなかった’ 出ねかった。 ‘出なかった’

「ねえ」「ねかった」が接続するときの動詞の形は標準語の「ない」「なかった」の場合と基本的に同じです。

中年層以下では標準語と同じ「ない」「なかった」を使うこともありますが、高年層話者と話す場面やくだけた場面で「ねえ」「ねかった」を使うことも多くあります。

練習問題 1

次の動詞を「ねえ」を使った否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) おす (押す) → おさねえ

- 1) のむ (飲む) 2) おく (置く) 3) かう (買う) 4) みる (見る)
5) あける (開ける) 6) くる (来る) 7) そうじする (掃除する)

練習問題 2

次の動詞を「ねかった」を使った過去否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) おす (押す) → おさねかった

- 1) とぶ (飛ぶ) 2) およぐ (泳ぐ) 3) すう (吸う) 4) にる (煮る)
5) まぜる (混ぜる) 6) くる (来る) 7) よやくする (予約する)

コラム 動詞の活用

福島語の動詞の活用のタイプは、標準語と同じく、四段活用動詞と一段活用動詞の2つに大きく分かります。

四段活用動詞とは「おさ-ねえ」「おし-ながら」「おす」「おせ-ば」のように、接尾辞の前の音が4とおりに変化する動詞です。標準語ではこのほかに意志形の「おそ-う」があるので五段活用といいますが、福島語では意志を「おすべ」で表し（後の授業で説明します）、「おそ-う」という形がないので四段動詞と呼びます。

一段活用動詞とは「で-ねえ」「で-ながら」「で-る」「で-れば」のように、接尾辞の前の音が1種類しかない動詞です。「で-る」のように接尾辞の前の音がエ段音のものを下一段活用、「み-る」のように接尾辞の前の音がイ段音のものを上一段活用といいますが、この授業では両方まとめて一段活用動詞と呼びます。

否定の接尾辞「ねえ」をつけたとき「おさ-ねえ」のように「ねえ」の前がア段音になるのが四段活用動詞、「で-ねえ」「み-ねえ」のようにイ段音かエ段音になるのが一段活用動詞です。

以上は、中学校や高校の国語の時間に習うことをもとにした説明ですが、より正確な活用の整理ではアルファベット表記を用います。動詞の様々な活用形のうち、活用しても形が変わらない部分を語幹、変わる部分を接尾辞といいます。福島語の様々な動詞の活用形について、語幹と接尾辞を分けて示したのが下の表です。四段活用動詞は語幹が子音で終わり、一段活用動詞は語幹が母音で終わります。

	四段活用			一段活用		
	押す	書く	読む	出る	見る	起きる
否定形	os-anee	kak-anee	yom-anee	de-nee	mi-nee	oki-nee
基本形	os-u	kak-u	yom-u	de-ru	mi-ru	oki-ru
仮定形	os-eba	kak-eba	yom-eba	de-reba	mi-reba	oki-reba
命令形	os-e	kak-e	yom-e	de-ro	mi-ro	oki-ro

活用形はこのほかにもあります。ここに挙げたのは活用形の一例です。

四段活用動詞でも一段活用動詞でもない特別なタイプの動詞に、カ行変格活用

動詞（カ変動詞）「来る」、サ行変格活用動詞（サ変動詞）「する」があります。福島語の「来る」「する」の活用は、基本的に標準語と同じです。

福島語の動詞の活用は基本的に標準語と同じですが、違うところについては、後の授業で説明します。

2. 形容詞の否定、形容動詞・名詞の否定【高・中】

形容詞の否定、過去否定は、標準語と同じく形容詞を「く」の形に活用してから「ねえ」「ねかった」をつけて表します。

安く ねえ ‘安くはない’ 安く ねかった ‘安くなかった’

形容動詞と名詞の否定、過去否定は、「で」の後に「ねえ」「ねかった」をつけて表します。標準語では「で」に「は」をつけて「ではない」「ではなかった」ということが多いですが、福島語では「でねえ」「でねかった」のように「は」をつけないことが多いです。中年層以下では「じゃねえ」「じゃねかった」と言うこともあります。

静かで ねえ ‘静かではない’ 雨で ねえ ‘雨ではない’

静かで ねかった ‘静かではなかった’

雨で ねかった ‘雨ではなかった’

練習問題3

次の語句を「ねえ」を使った否定の形にしてひらがなで書きなさい。

例) やすい（安い）→やすくねえ

1) うすい（薄い） 2) ひろい（広い） 3) ひくい（低い）

4) げんきだ（元気だ） 5) がくせいだ（学生だ）

練習問題4

次の語句を「ねかった」を使った過去否定の形にしてひらがなで書きなさい。

例) やすい（安い）→やすくねかった

- 1) あつい (暑い) 2) とおい (遠い) 3) ふるい (古い)
4) ひまだ (暇だ) 5) やすみだ (休みだ)

3. 音韻規則 ran → Nn【高・中】

動詞の否定形で ran という音連続が発生した場合、ra の音が N に交替します。この音韻規則は標準語と同じ「ない」を使う場合にも適用されることがあります。

wakaranee → wakaNnee わかんねえ ‘わからない’

hairanai → haiNnai 入んない ‘入らない’

この音韻規則が適用される ran という音連続が発生するのは、wakar-anee、hair-anai など、語幹が子音 r で終わる四段動詞に否定接辞-anee (あるいは標準語的な-anai) がついたときです (コラム参照)。

練習問題 5

次の動詞を「ねえ」を使った否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) わかる (分かる) → わかんねえ

- 1) おる (折る) 2) つる (釣る) 3) まわる (回る)

練習問題 6

次の動詞を「ねかった」を使った過去否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) わかる (分かる) → わかんねかった

- 1) ほる (掘る) 2) なる (鳴る) 3) かわる (変わる)

4. 音韻規則 ni_n, no_n → N_n【高・中】

助詞「に」「の」は n ではじまる語の前にあるとき「ん」と発音されることがあります。基底形の ni_n および no_n という音連続が N_n に交替するわけです。

otona=ni naru → otona=N naru 大人んなる ‘大人になる’

sumaho=no naka → sumaho=N naka スマホンなか ‘スマホのなか’

ただし、助詞「に」「の」の前の音が「ん」の場合は「に」「の」は「に」「の」のまま「ん」にはなりません。

koomuiN=ni naru 公務員になる

kabaN=no naka カバンのなか

また、使用頻度の高い語である動詞「なる」、名詞「なか」の前に助詞「に」「の」がある場合、この音韻規則が適用されやすいですが、「なる」「なか」以外の語の場合には適用されるとは限りません。特に、使用頻度の低い語が後に続くときは適用されにくいです。

torotoro=ni niru とろとろに煮る

sumaho=no nedaN スマホの値段

練習問題 7

例にならって ni_n, no_n → N_n の音韻規則を適用し、1) ~ 4) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘大人になる’ otona=ni naru → おとなんなる

1) ‘世話になった’ sewa=ni natta →

2) ‘夕方になる’ yuugata=ni naru →

3) ‘部屋のなか’ heya=no naka →

4) ‘心のなか’ kokoro=no naka →

Lesson8 車で来てっから飲まんにい。

- 亮太（30 代）は地域の祭りを取材に来ました。祭りのあと、みんなと乾杯しようとしたとき、婦人会の京子さん（60 代）に声をかけられました。

京子さん： あんたは お酒 飲まれんのかい？

aNta=wa osak^hke nomareN=no=^hk^hae?

亮太： いつもだと 飲めんですけど、

ic^humo=da^hto nomeN=desu=kedo

今日は 車で 来てっから

kyoo=wa kuruma=de kitek=kara

飲まんにんです。

nomaNni=N=desu.

京子さん： そうかい。 したら お茶 飲みな。

soo=^hk^hae. sutara oc^hya nomina.

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた ^hk, ^ht, ^hc の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

飲まれる nomareru ‘飲める’（動詞） したら sutara

飲まんに nomaNni ‘飲めない’（動詞） ‘そうしたら、それなら’（接続詞）

[復習ポイント]

nomareru=no は ru=n → N=n の音韻規則が適用されて nomareN=no（飲まれん

の）になります（Lesson5）。nomeru=N=desu=kedo は ru=N → N の音韻規則が適用されて nomeN=desu=kedo（飲めんですけど）になります（Lesson5）。

1. 可能表現と受身表現【高・中】

伝統的な福島語では接尾辞「(ら) れる」を使った形が可能と受身の意味で使われます。また、中年層以下では可能の意味だけを表す可能動詞形も使われます。可能動詞形は受身の意味にならない可能専用の形式です。Lesson7 のコラムで説明した動詞の活用ごとに示すと次のようになります。

	「(ら) れる」の形 【可能】【受身】	可能動詞形 【可能専用】
四段動詞	飲まれる	飲める
一段動詞	見られる	見れる
カ変動詞	来(こ) れる	来(こ) れる
サ変動詞	運転しられる	×

大人だから お酒 飲まれる／飲める ‘飲める（可能）’

病気 治って 学校さ 来られる／来れる ‘来られる（可能）’

おれの 酒 勝手に 飲まれる ‘飲まれる（受身）’

押し売りに 家さ 来られる ‘来られる（受身）’

標準語の「(ら) れる」の形は可能と受身のほかに「先生がお酒を飲まれた。」のように尊敬の意味で使うこともあります。福島語の「(ら) れる」が尊敬の意味で使われることはありません。一段動詞とカ変動詞の可能動詞形は、標準語で「ら抜きことば」と呼ばれるものです。福島語の場合、「ら抜きことば」を含めた可能動詞形全体が中年層以下で使用の広まった新しい形ということになります。

サ変動詞「する」については、「しられる」という標準語にない形が可能表現・受身表現として使われます。中年層以下では、標準語と同じく、可能の意味で「で

きる」、受身の意味で「される」を使うことが多いです。

免許 とったから 車 運転しられる／運転できる

‘運転できる（可能）’

おれの 車 勝手に 運転しられる／運転される

‘運転される（受身）’

練習問題 1

例にならって次の福島語の文を標準語に訳しなさい。

例) おれは難しい漢字、書かれる。 → 私は難しい漢字が書ける。

1) 鳥は羽あっから空飛ばれる。

2) あの人は金持ちだから、なんでも買われる。

2. 音韻規則 rene, rine → Nni【高・中】

動詞の否定形で rene ないし rine という音連続が発生した場合、その音連続が Nni に交替します。この音韻規則は「れ」「り」という音に否定の「ねえ」がついたときに適用されます。

taorenekatta → taoNnikatta 倒んにかった ‘倒れなかった’

tarinekatta → taNnikatta 足んにかった ‘足りなかった’

「ねえ」が過去形でなく基本形のときは、この音韻規則の適用にあわせて、rene、rine の後の e の音も i に変わります。

taorenee → taoNnii 倒んにい ‘倒れない’

tarinee → taNnii 足んにい ‘足りない’

この音韻規則は、可能と受身の意味で使われる「(ら) れる」が否定形になったときも適用されます。

nomarenekatta → nomaNnikatta 飲まんにかった

‘飲めなかった（可能）／飲まれなかった（受身）’

nomarenee → nomaNnii 飲まんにい

‘飲めない（可能）／飲まれない（受身）’

なお、高年層の場合、Nni ではなく Nnye という音の実現することもあります。

taorenee → taoNnyee 倒んにええ ‘倒れない’

練習問題 2

例にならって rene, rine → Nni の音韻規則を適用し、1) ～8) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。‘ ’ で示したのは標準語訳である。

例) ‘倒れない’ taorenee → たおんにい

1) ‘折れない’ orenee →

2) ‘外れない’ hazurenee →

3) ‘出られない’ derarenee →

4) ‘書けない’ kakarenee →

5) ‘折れなかった’ orenekatta →

6) ‘下りなかった’ orinekatta →

7) ‘着られなかった’ kirarenekatta →

8) ‘飛べなかった’ tobarenekatta →

3. 「(ら) れる」の活用【高・中】

上で説明したように、「(ら) れる」の否定形には rene → Nni の音韻規則が適用されます。また、過去形では、Lesson4 で説明した ret → ccy の音韻規則が適用

されます。これを整理すると次のようになります。このような活用の変化を身につけると、福島語の可能・受身の表現が使いこなせるようになります。

	肯定	否定
非過去	のまれる nomareru	のまんにい nomare <u>ne</u> → noma <u>Nnii</u>
過去	のまっちゃ nomare <u>ta</u> → nomac <u>cy</u> a	のまんにかつた noare <u>ne</u> katta → noma <u>Nni</u> katta

練習問題 3

例にならって次の福島語の文を標準語に訳しなさい。

例) おれは難しい漢字、書かんにい。 → 私は難しい漢字が書けない。

- 1) 人の名前なかなか覚えらんにい。
- 2) 部屋暗くて、本読まんにかつた。
- 3) 人ごみで誰かに足踏まっちゃ。
- 4) 成績よくて、学校で表彰しらっちゃ。

練習問題 4

例にならって 1) ～10) の標準語の受身や可能の表現を福島語に直してひらがなで書きなさい。「(ら) れる」の形を使い、rene → Nni ないし ret → ccy の音韻規則を適用すること。

例) ‘飲めない’ → のまんにい

- 1) ‘押せない’
- 2) ‘貼れない’
- 3) ‘起きられない’
- 4) ‘運転できない’
- 5) ‘立てなかった’
- 6) ‘開けられなかった’
- 7) ‘来られなかった’
- 8) ‘恨まれた’
- 9) ‘取られた’
- 10) ‘ほめられた’

4. 「んねえ」と「んにい」【高・中】

Lesson7 で説明したように ran という音連続には ran → Nn という音韻規則が適用され、この Lesson8 で説明したように rene、rine という音連続には rene、rine → Nni という音韻規則が適用されます。つまり、否定形を作るとき、基底形が ranee の場合は「んねえ」、基底形が renee か rinee の場合は「んにい」という音が実現

します。

wakaranee → wakaNnee わかんねえ ‘わからない’

wakarenee → wakaNnii 別んにい ‘別れない’

ですから、「魚釣んねえ」は‘魚を釣らない’という意味で魚を釣るつもりがないことを表しますが、「魚釣んにい」は‘魚が釣れない’という意味で魚が釣り竿にかからないことを表します。

練習問題 5

例にならって次の福島語の文を標準語に訳しなさい。

例) 魚釣んねかつた。 → 魚を釣らなかつた。

- 1) 目つぶんねかつた。
- 2) 店つぶんにかつた。
- 3) りんご売んねえ。
- 4) りんご売んにい。

5. 長母音の短母音化【高・中】

Lesson4 で説明したとおり、形容詞の基本形の語尾には ae → ee という音韻規則が適用されます。この後さらに ee → e のように長母音が短母音になる音韻規則が適用されることがあります。

Nmae → Nmee → Nme んめ ‘うまい’

この短母音化は、rene、rine → Nni の音韻規則で生じた長母音 ii に適用されることもあります。

nomarenee → nomaNnii → nomaNni 飲まんに

‘飲めない（可能）／飲まれない（受身）’

長母音の短母音化は必ず起こるわけではなく、長母音のままの場合もありますし、少し短く聞こえるだけの場合もあります。

Lesson9 しみみちも、んまいかったな。

● 婦人会の京子さん（60代）と青年会の弘明さん（30代）が話しています。

弘明さん： 京子さんの 持って きて くっちゃ

kyookosaN=no motte kite kuccya

いかにんじん んまかったです。

ik^hanin^zin Nma^hk^hatta=desu.

京子さん： んめかったかい？

Nme^hk^hatta=^hkae?

にんじん ほそく きっと んめんだ。

ninzuN hosok^hu kitto Nme=N=da.

弘明さん： こないだの しみもちも んまいかったな。

konaida=no simimoc^hi=mo Nmai^hk^hatta=na.

京子さん： ははは また 持って くっから。

hahaha mat^ha motte kuk=kara.

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた ^hk, ^ht, ^hc の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

いかにんじん ikaniNzuN こないだ konaida ‘この間’（副詞）
 ‘いかにんじん’（名詞）

いかにんじんとは、するめいかと人参を細切りにして醤油やみりん、酒で浅漬けにしたものです。年中作られますが、特にお正月によく見かけます。

しみもちとは、よもぎを混ぜて作った草もちを冬の寒い日に屋外で凍らせて乾燥させたものです。水分が抜けて保存食になります。今では年中見かけますが、昔は春から夏にかけての農作業で小腹がすいたときのおやつとしてよく食べられました。



1. 形容詞の基本語幹【高・中】

形容詞は語幹に様々な接辞がつくことで活用します。基本形では-e、過去形では-katta、中止形では-ku がつきます。例えば「んまい」の場合、語幹 Nma-にこれらの接辞がつきます。中止形「んまく」に「ねえ」をつけると「んまくねえ」「うまくない」のように否定の表現になります。

	基本形 -e	過去形 -katta	中止形 -ku
基本語幹 Nma-	んまい Nma-e	んまかった Nma-katta	んまく Nma-ku

この活用の仕組みは標準語でも福島語でも同じです。福島語「んまい」の語幹 Nma-は標準語「うまい」の語幹 Uma-に相当します。下で述べるように、福島語の形容詞は複数の語幹を持ちますが、標準語の語幹に対応する語幹の形を基本語幹と呼ぶことにします。

練習問題 1

例にならって、次の形容詞の基本語幹をひらがなで書きなさい。

例) んまかった→んま

- 1) うすい 2) ひろい 3) ふかかった 4) さむかった 5) くるしかった
 6) あかく 7) たのしく 8) ねむく

2. 形容詞の第二語幹【高】

基本語幹が **a** で終わる形容詞は、多くの場合、基本形で **ae** → **ee** の音韻規則 (Lesson4 参照) が適用されます。例えば「んまい」の場合、基本形「んまい **Nmae**」は「んめえ **Nmee**」になります。このとき生じた **Nme** (んめ) という形が語幹としてはたらき、過去形で「んめかった **Nme-katta**」、中止形で「んめく **Nme-ku**」という形が使われることがあります。このように、**ae** → **ee** の音韻規則で生まれた語幹を第二語幹と呼ぶことにします。

	基本形 -e	過去形 -katta	中止形 -ku
第二語幹 Nme-	んめえ Nme-e	んめかった Nme-katta	んめく Nme-ku

第二語幹は、**Nma-e** → **Nmee** (んめえ ‘うまい’)、**taka-e** → **takee** (たけえ ‘高い’) のように、基本語幹の末尾が **a** の形容詞の場合に生じます。**hiro-e** (広い)、**samu-e** (寒い) のように基本語幹の末尾が **o** や **u** の形容詞では、**waru-e** (悪い) が **wari-i** (わりい) や **wari-katta** (わりかった) になるような一部の例外を除き、第二語幹はありません。

練習問題 2

例にならって、次の福島語の形容詞の表現を標準語に直してひらがなで書きなさい。なお、中止形には「ねえ」をつけて否定の表現にしてある。

例) たけえ→たかい たけくねえ→たかくない

1) あめえ 2) かれえ 3) すくねえ 4) あけかった 5) なげかった

6) おもてかった 7) わけくねえ 8) あぶねくねえ 9) いてくねえ

3. 形容詞の第三語幹【高・中】

第二語幹は **ae** → **ee** の音韻規則によって生じた語幹ですが、この語幹をもとの **ae** の形に戻そうとする意識がはたらき、第二語幹の **e** を **ae** に変えた形が語幹として使われることがあります。例えば「んまい」の場合、過去形で「んまいかった **Nmae-katta**」、中止形で「んまいく **Nmae-ku**」という形が使われます。

	基本形 -e	過去形 -katta	中止形 -ku
第三語幹 Nmae-	×	んまいかった Nmae-katta	んまいく Nmae-ku

この語幹を第三語幹と呼ぶことにします。第三語幹は基本語幹から生じた基本形の「んまい **Nma-e**」と同じ形で、「んまい **Nmae-**」を語幹として、そこに **-katta** や **-ku** がつきます。

ae → **ee** という音韻規則で生じた第二語幹がややぞんざいな語感を持つのに対し、それをもとの **ae** の形に戻した第三語幹はやや丁寧な語感を持ちます。やや丁寧な表現なので、話者によっては、この第三語幹を標準語とほぼ同じ感覚で方言と意識せずに使うこともあります。

また、第二語幹は基本語幹が **a** で終わる形容詞にだけ生じますが、第三語幹は基本語幹が **a** 以外で終わる形容詞にも生じます。これは基本語幹が **a** で終わる形容詞からの類推によると考えられます。

hiroe-katta (広いかった) **hiroe-ku-te** (広いくて)

samue-katta (寒いかった) **samue-ku-te** (寒いくて)

第三語幹は特に過去形でよく使われ、「んまいくない」「ひろくない」のように否定に続く中止形で使われることはありません。ただし、「んまいくて」「広いくて」のように中止形に「て」をつけた形で使われることはあります。

練習問題 3

例にならって、次の福島語の形容詞の表現を標準語に直してひらがなで書きなさい。なお、中止形には「て」をつけてある。

例) たかいかった→たかかった たかいくて→たかくて

1) ちかいかった 2) ふるいかった 3) ひどいかった

4) くらいくて 5) つよいくて 6) ねむいくて

4. 形容詞の活用の整理【高・中】

ここまで形容詞の活用について説明してきました。3 とおりの語幹をそれぞれ説明すると複雑に思えますが、基本的な活用の仕組みは標準語と同じで、第二語幹と第三語幹の形も標準語と似ていますから、理解はしやすいと思います。実際に福島語を話すときは、まず標準語と同じ基本語幹を使い、慣れてきたら第二語幹や第三語幹も使ってみるとよいでしょう。

それぞれの語幹の活用形を表にして整理すると次のようになります。

基本語幹が a で終わる形容詞

	基本形 -e	過去形 -katta	中止形 -ku
基本語幹 Nma-	んまい Nma-e	んまかった Nma-katta	んまく Nma-ku
第二語幹 Nme-	んめえ Nme-e	んめかった Nme-katta	んめく Nme-ku
第三語幹 Nmae-	×	んまいかった Nmae-katta	んまいく Nmae-ku

基本語幹が a 以外で終わる形容詞

	基本形 -e	過去形 -katta	中止形 -ku
基本語幹 Nma-	さむい samu-e	さむかった samu-katta	さむく samu-ku
第二語幹 Nme-	×	×	×
第三語幹 Nmae-	×	さむいかった samue-katta	さむいく samue-ku

まとめ これまで習った音韻規則一覧

形容詞が活用するとき

音韻規則	例 ‘ ’ は標準語訳	初出単元
ae → ee	Nmae → Nmee んめえ ‘うまい’	Lesson4

基本形が=ru で終わる動詞に助詞がついたとき

音韻規則	例 ‘ ’ は標準語訳	初出単元
ru=k → kk ru=t → tt	aru=ka → akka あっか ‘あるか’ aru=to → atto あっと ‘あると’	Lesson4
ru=m → Nm ru=n → Nn ru=g → Ng	aru=mee → aNmee あんめえ ‘あるまい’ aru=no → aNno あんの ‘あるの’ aru=gana → aNgana あんがな ‘あるもの’	Lesson5
ru=N → N	aru=N=da → aN=da あんだ ‘あるんだ’	Lesson5

動詞が活用するとき

音韻規則	例 ‘ ’ は標準語訳	初出単元
ret → ccy	wasurete → wasucce 忘っちえ ‘忘れて’ okorareta → okoraccya 怒らっちゃ ‘怒られた’	Lesson4
ran → Nn	wakaranee → wakaNnee わかんねえ ‘わからない’	Lesson7
rine → Nni rene → Nni	tarinee → taNnii 足んにい ‘足りない’ okorarenee → okoraNnii 怒らんにい ‘怒られない’	Lesson8

助詞に関して

音韻規則	例 ‘ ’ は標準語訳	初出単元
ni_n → N_n no_n → N_n	otona=ni naru → otona=N naru 大人んなる ‘大人になる’ hara=no naka → hara=N naka 腹ん中 ‘腹の中’	Lesson7

Lesson10 雨やんだべ。畑さ出っぺ。

● 亮太（30代）は自分の祖父母（80代）の家に来ました。ばあちゃんと最近の暮らしについて話します。

亮太 : ばあちゃん このごろ 畑さは 出ねえの？

baacyaN konogoro ha^{tt}ake=sa=wa denee=no?

ばあちゃん : いや 出っつお。

eya dec=co.

今日は 雨 降ってたから 家さ いたんだ。

kyoo=wa ame hutte^{tt}a=^kkara ee=sa e^{tt}a=N=da.

亮太 : ふうん。

huuN.

ばあちゃん : どれ、だんだん 雨 やんだべ。

dore daNdaN ame yaNda=be.

畑さ 出っぺ。

ha^{tt}ake=sa. dep=pe.

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた ^k, ^t, ^c の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

出っつお dec=co

‘出るぞ’（動詞＋終助詞）

だんだん daNdaN ‘そろそろ’（副詞）

出っぺ dep=pe ‘出よう’（動詞＋助詞）

1. 推量・確認と意志・勧誘の「べ」【高・中】

「べ」は標準語の「だろう」にあたる推量・確認の意味と、標準語の「（よ）う」にあたる意志・勧誘の意味を表します。自分の未来の行動を表す動詞につくときは意志、それが相手も含む場合は勧誘の意味になります。それ以外の場合には推量・確認の意味を表します。動詞でない場合、あるいは、未来のことでない場合には、必ず推量・確認の意味になります。確認の意味の場合、上昇イントネーションになることが多いです。

雨 やんだべ。‘雨がやんだだろう。’《推量》

おめえ 学生だべ？ ‘お前は学生だろう？’《確認》

おら お茶 飲むべ。‘私はお茶を飲もう。’《意志》

いっしょに お茶 飲むべ。‘一緒にお茶を飲もう。’《勧誘》

ただし、標準語と同じく、推量と意志の意味は、「べ」がなくても表すことができます。例えば、推量の意味は「たぶん」で表すことがありますし、意志の意味も文脈から自分の行動であることがわかれば「べ」は要りません。

たぶん 雨 やんだ。‘たぶん雨がやんだ。’《推量》

おら お茶 飲む。‘私はお茶を飲む。’《意志》

勧誘の意味も、標準語と同じく、否定疑問文「ねえか」など他の形で表すことができます。

いっしょに お茶 飲まねえかい。

‘一緒にお茶を飲みませんか。’《勧誘》

練習問題 1

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 外は寒いべ。
- 2) おめえ、酒飲まんにいべ？
- 3) おれも先生さ本当のこと話すべ。
- 4) いっしょに駅まで歩くべ。
- 5) 外は雨だべから、傘差すべ。

練習問題 2

次に示す標準語の文を「べ」を使った福島語の文に直しなさい。これまでの授業で習った内容も反映すること。

- 1) 明日は雪だろう。
- 2) ここのラーメン、うまいだろう？
- 3) 今年も先生に年賀状を書こう。
- 4) いっしょにあの敵を倒そう。
- 5) 明日は暑いだろうから、半そでの服を用意しておこう。

2. 音韻規則 $ru=z \rightarrow c=c$ 、 $ru=b \rightarrow p=p$ 【高・中】

動詞の基本形の語尾 ru に z ではじまる助詞がつく場合、 $ru=z \rightarrow c=c$ という音韻規則が適用されます。同じように b ではじまる助詞がつく場合、 $ru=b \rightarrow p=p$ という音韻規則が適用されます。この音韻規則は、「る」で終わる動詞の基本形に終助詞「ぞ」、推量・意志の助詞「べ」がつくときに適用されます。

$deru=z$ → $dec=c$ (出っつお) ‘出るぞ’

$aru=z$ → $ac=c$ (あっつお) ‘あるぞ’

$deru=b$ → $dep=p$ (出っぺ) ‘出るだろう／出よう’

$aru=b$ → $ap=p$ (あっぺ) ‘あるだろう’

練習問題 3

$ru=z \rightarrow c=c$ ないし $ru=b \rightarrow p=p$ の音韻規則を適用し、1)～8) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。‘ ’ で示したのは標準語訳である。

例) ‘出るぞ’ $deru=z$ → でっつお

‘出るだろう／出よう’ $deru=b$ → でっぺ

- 1) ‘借りるぞ’ $kariru=z$ →
- 2) ‘見るぞ’ $miru=z$ →
- 3) ‘貼るぞ’ $haru=z$ →
- 4) ‘勉強するぞ’ $beNkyoo=suru=z$ →
- 5) ‘起きるだろう／起きよう’ $okiru=b$ →
- 6) ‘折れるだろう’ $oreru=b$ →
- 7) ‘降るだろう’ $huru=b$ →
- 8) ‘我慢するだろう／我慢しよう’ $gamaN=suru=b$ →

練習問題 4

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 車にひかれっつお。
- 2) 今度こそ勝ってやっつお。
- 3) おれがやんねくても、誰かやってくれっぺ。
- 4) おめえも気になっぺ？
- 5) おら、じいちゃんとお祝いすっぺ。
- 6) 雨降っぺから、折り畳み傘バッグさ入れっぺ。

練習問題 5

次に示す標準語の文を「ぞ」ないし「べ」を使った福島語の文に直しなさい。「ぞ」「べ」には $ru=z \rightarrow c=c$ ないし $ru=b \rightarrow p=p$ の音韻規則を適用すること。

- 1) 絶対に合格するぞ。
- 2) ふざけてると怒るぞ。
- 3) 冷蔵庫にプリンがあるだろう。
- 4) お前もパーティーに来るだろう？
- 5) 今日は早く寝よう。

コラム 「べ」の時代的変遷と地域差

福島語で推量や意志を表す「べ」は『源氏物語』などの古典文学作品で使われた助動詞「べし」に由来します。古典語の「飲むべし」は、主語が1人称のときは「飲もう」という意志の意味、それ以外の場合は「飲むだろう」という推量の意味を表していました（高校の古典の授業では、このほかに当然、適當、命令、可能などの用法を教わることもあります、ここでは単純化します）。この「飲むべし」が

飲むべし→飲むべき→飲むべい→飲むべ

と変化して使われているのが福島語の「べ」です。「べ」は東北、関東の方言で広く使われています。明治期に東北からの移住者が多かった北海道でも使われます。

古典語の「べし」は、形容詞に対しては「寒かるべし」と接続していました。これは「寒くあるべし」という形に由来します。「寒くあるべし」は次のように「寒いべ」に変わりました。

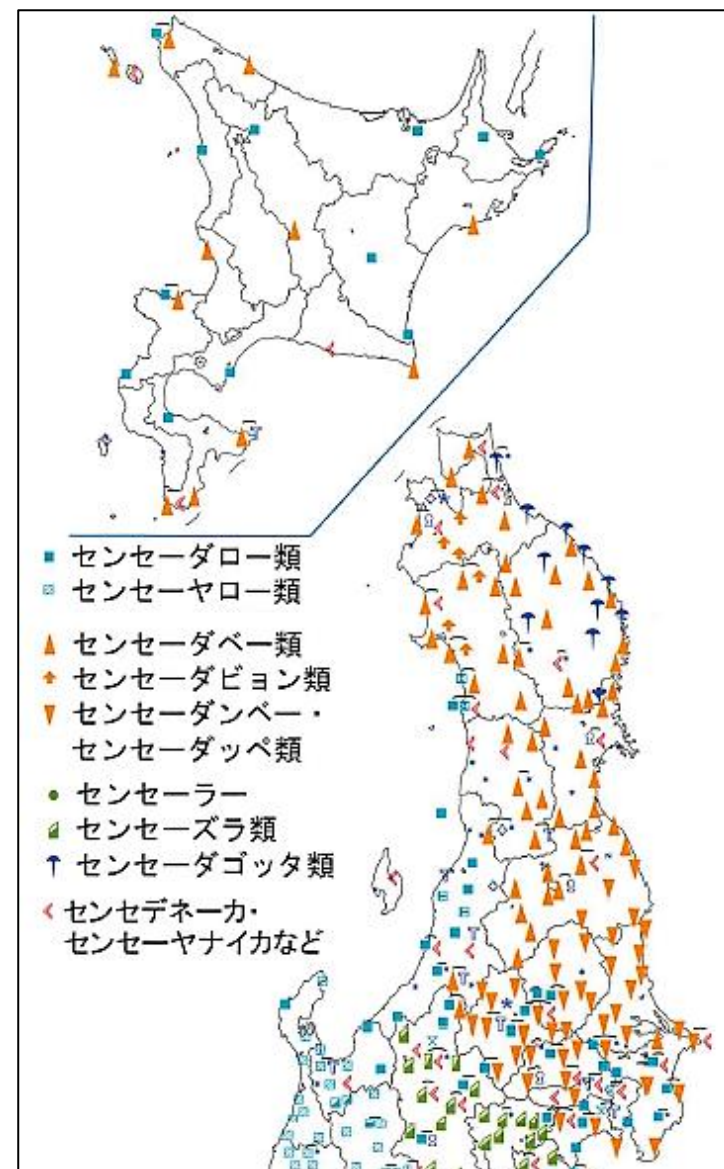
寒くあるべし→寒かるべし→寒かるべき→寒かるべい

→寒かんべ・寒かつぺ→寒いべ

同じように、名詞に接続する形は次のように変化しています。

雨にてあるべし→雨であるべい→雨だんべ・雨だっぺ→雨だべ

変化の途中にある「寒かんべ、寒かつぺ」「雨だんべ、雨だっぺ」という形は主に関東に分布し、さらに変化が進んだ「寒いべ」「雨だべ」という形は東北から北海道に分布します。右の「先生だろう」の地図で「▼先生だんべ・先生だっぺ」と「▲先生だべ」の分布をくらべてください。この地図は高年層話者（主に昭和5～15年生まれ）の調査結果ですが、若い世代では関東でも「先生だべ」を使う人が多いようです。「べし」から「べ」への変化という点では東北のほうが関東よりも時代の先を走っているということになります。



大西拓一郎編（2016）『新日本言語地図』朝倉書店

Lesson11 昨日はいたったけんちょも、今日はいたかな。

● 亮太（30代）の幼なじみでばあちゃん（80代）の家の隣に住んでいる晃が、仙台から帰省してきているという話です。

ばあちゃん： そう いえば 晃くん 来ったぞ。

soo ieba akirakuN kitta=zo

亮太： え？ 晃 来てんの？

e? akira kiteN=no?

ばあちゃん： でも ^{きんによ}昨日は いたったけんちょも

demo kiNnyoo=wa etatta=keNcyomo

今日は いたかな。

kyoo=wa etakana

亮太： ばあちゃん 会ったんだ。

baacyaN atta=N=da

ばあちゃん： ^{きんによ}昨日 隣さ 回覧板 持ってたとき

kiNnyoo tonari=sa kaeraNbaN mottetta=okki

玄関さ 出て きたんだ。

geNkan=sa dete kita=N=da

亮太： いま 行ったら 晃 いっかな。

ima ittara akira ik=kana

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた **k, t, c** の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

来った kitta ‘来てた’（動詞活用形） ～たった tatta ‘～た’（接辞）

^{きんによ}昨日 kiNnyoo ‘昨日’（名詞）

～けんちょも keNcyomo

‘～けども’（助詞）

1. 音韻規則 teta→tta【高・中】

標準語の「ていた」に相当する teta という音連続は表層形で tta という音に交替します。tetara（てたら）や下で説明する過去の「たった」がついた tetatta（てた）に含まれる teta も tta に交替します。

kiteta → kitta^き来った ‘来ていた’

mitetara → mittara 見ったら ‘見ていたら’

kaetetatta → kaettatta 書い^きった ‘書いていた’

ただし、teta の前に t（「っ」）がある場合、この音韻規則は適用されず、基底形の teta が teta のまま表層形になります。

kitteta 切^きってた ‘切っていた’ ×kitttta 切^きった

練習問題 1

teta → tta の音韻規則を適用し、1)～6)の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。‘ ’で示したのは標準語訳である。

例) ‘見ていた’ miteta → みった

1) ‘借りていた’ kariteta →

2) ‘置いていた’ oeteta →

3) ‘寝ていた’ neteta →

- 4) ‘開けていたら’ aketetara →
 5) ‘書いていたら’ kaetetara →
 6) ‘着ていたら’ kitetara →

2. 現在を表す「いた」【高】

標準語の「いた」「てた」は基本的に過去のことを表しますが、福島語の「いた」「てた」は過去のほかに現在の一時的状態も表します。例えば、次の例では、“(いつもそうとは限らないけれど今は) いる／来ている”ということを「いた」「来(き) った」が表しています。「来(き) った」は基底形 kiteta に teta → tta の音韻規則が適用された形です。

今日は いたかな。‘今日はいるかな。’

いま 晃くん ^き 来った。‘いま晃くんが来てる。’

現在の恒常的状态は、標準語と同じく「いる」「てる」が表します。例えば、神社に神様がいること、家族が毎朝ラジオ体操をしていることなど、いつもその状態であることは「いる」「てる」が表します。

神社さは 神様 いる。‘神社には神様がいる。’

じいちゃん 毎朝 ラジオ体操 してる。

‘じいちゃんは毎朝ラジオ体操をしている。’

また、未来のことも「いる」「てる」が表します。

おら 明日 家さ いる。‘私は明日家にいる。’

おら 明日 家で 寝てる。‘私は明日家で寝ている。’

つまり、「いた」「てた」と「いる」「てる」の使い分けは基本的に標準語と同じですが、現在の一時的状態で「いた」「てた」を使う点だけ標準語と違うことになります。ただし、中年層以下の若い話者は現在の一時的状態を標準語と同じように

「いる」「てる」で表すようになっています。

いま 晃 いっかな。‘いま晃いるかな。’

いま 晃 来てんの？ ‘いま晃来てるの？’

[復習ポイント]

音韻規則 ru=k → k=k (Lesson4) iru=kana → ik=kana いっかな
 音韻規則 ru=n → N=n (Lesson5) kiteru=no → kiteN=no 来てんの

練習問題 2

次に示す福島語の文のうち「てた」の使い方が誤っているものを1つ選びなさい。なお、一部の文では teta → tta の音韻規則が適用されて「てた」が「った」になっている。

ア) いま、風呂沸いったから、早く入りな。

イ) 昨日の今ごろ、じいちゃん、テレビ見ったよ。

ウ) 晃、さっき、部屋で宿題やってた。

エ) 来週の週末は、おら、旅行さ行ってたぞ。

練習問題 3

次に示す標準語の文のうち、「いる」を福島語で「いた」に置き換えられるものをすべて選びなさい。(できれば文全体を福島語に翻訳するとよい。)

ア) ホッキョクグマは北極にいる。

イ) 私はさっきからずっとここにいるよ。

ウ) 私は、来年の正月はハワイにいるんだ。

エ) 明日、家にはじいちゃんがいる。

オ) 晃は、いまどこにいるだろう。

3. 過去だけを表す「たった」【高】

過去を表すとき、「た」ではなく「たった」を使うことがあります。

きんによ

昨日 晃くん いた／いたった。‘昨日晃くんがいた。’

福島語の「た」は、標準語の「た」と同じく、現在の状態や思い出しを表すことがあります。例えば、次のような場合です。「腹減った」は過去に腹が減ったことではなく、今腹が減っていることを表します。「明日休みだった」は思い出したこと、「バス来た」は気づいたことを表します。

あー 腹 減った。‘あー、腹が減った。’

そういえば 明日 休みだった。‘そういえば、明日は休みだった。’

あ バス 来た。‘あ、バスが来た。’

一方、「たった」は、過去のことに限定して使われ、現在の状態や思い出し、気づきを表すことはありません。

練習問題 4

次に示す福島語の文のうち、「た」を「たった」に置き換えられるものを2つ選びなさい。

- ア) 昨日 (きんによう) は、時間どおりにバス来た。
- イ) 風呂場さヤスデいた。今から退治すつお。
- ウ) レポートの締切、たしか来週だったよな。
- エ) 今月も売り上げ減ったなあ。なんとかしねえと。
- オ) 昔は田んぼでイナゴとりしたもんだ。懐かしいなあ。

まとめ 福島語の時間表現

		動詞「いる」 「～ている」	それ以外の動詞 (例：飲む)
現在	未来	いる	飲む
	恒常的状态	いる	*
	一時的狀態	いた	*
過去	過去以外のことも表す	いた	飲んだ
	過去だけを表す	いたった	飲んだった

* 「いる」以外の動詞は基本的に「～ている」の形にしないと現在を表さない

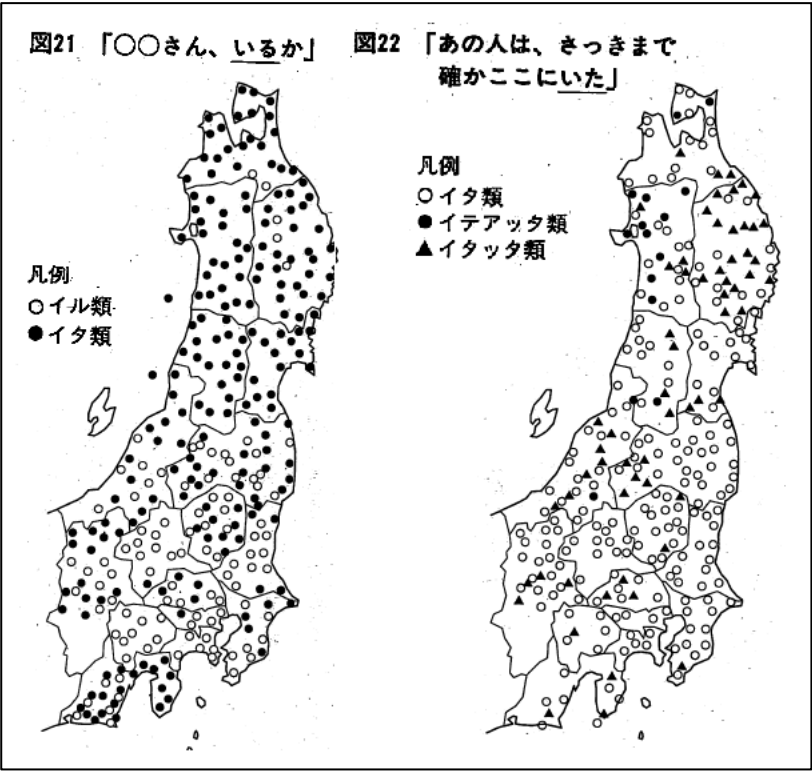
練習問題 5

次に示す福島語の文を標準語の文に訳しなさい。

- 1) 今ごろ、亮太は何したかな。
- 2) 教室さ着いたとき、先生もう授業したった。

コラム 「いた」と「たった」を使う地域

「いた」は古典語の「ゐたり」に由来する表現で、もともと“座っている”という現在の一時的状態を表していました。「いた」が現在の一時的状態を表す方言は東日本の各地に広がっています。「たった」も東日本の各地に分布しています。秋田県では「てあった」ということもあります。



真田信治 (2002) 『方言の日本地図』 講談社

Lesson12 この車、新しく買ったんだっけ。

● 亮太（30代）は幼なじみの晃（30代）と久しぶりに会いました。亮太の買った車の話をしています。

亮太： この車 新しく 買ったんだっけ。

kono kuruma atarasiku katta=N=da=kke

晃： おお なかなか いい 車だべした。

oo nakanaka ii kuruma=da=besita

お前 ずっと 東京さ いたから

omae zutto tookyoo=sa ita=kara

運転すんの 久しぶりだべ。

uNteN=suN=no hisasiburi=da=be

亮太： うん。最初は 運転すんの

uN saisyo=wa uNteN=suN=no

おっかなくて いたけど 今は 大丈夫。

okkanakute ita=kedo ima=wa daijoobu

晃： 今度 おれも 乗せろよ。

koNdo ore=mo nosero=yo

亮太： いいよ。一緒に 遊びさ 行くべ。

ii=yo issyo=ni asobi=sa iku=be

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた[k], [t], [c]の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

～んだっけ=N=da=kke

おっかない okkanai ‘恐い’（名詞）

‘～んだよ’（終助詞）

～くている kute iru

～べした=besita

（形容詞の一時的状態の表現）

‘～じゃないか’（終助詞）

1. 説明の「んだっけ」【中】

中年層以下の若い世代の福島語で、文末の「んだっけ」は標準語の‘んだよ’にあたる説明の意味で使われることがあります。「んだっけ」は、標準語と同じく回想、疑問の意味で使われることもありますが、イントネーションで意味が区別されます。説明の意味になるのは、福島語に特有の平板なイントネーションで発音されたときです。

買ったんだっけ

[平板なイントネーション]
‘買ったんだよ（説明）’

買ったんだっけ

[下降のイントネーション]
‘買ったんだっけ（回想）’

買ったんだっけ

[上昇のイントネーション]
‘買ったんだっけ?’（疑問）

説明の「んだっけ」は誰かに事情を説明するときに使われる表現で、独り言では使いません。また、中年層以下の若い世代で使われる表現であり、高年層話者が使うことはほぼありません。

練習問題 1

次に示す福島語の文を、文末の「んだっけ」が平板なイントネーションで発音されたものとして、標準語の文に直しなさい。

- 1) あいつ、教室で暴っちえ先生に怒らっちゃんだっけ。
- 2) 部屋暗（くれ）えから、本読まんにいんだっけ。
- 3) この写真さ写ってんの、晃の妹なんだっけ。

コラム 若い世代の新方言「んだっけ」

	市町村	地点・駅	1910-	1920-	1930-	1940-	1950-	1960-	1970-	1980-
阿武隈急行線	福島市	FUKUSHIMA								
		南福島			-		△	-		●
		金谷川			-			△		
	安達町	安達		-	-		-	-		●
	二本松市	二本松		-		△				●
		杉田		△		-	△		●	
	本宮町	本宮		-	-	-		●		●
		五百川		-	-			△		●
	郡山市	日和田		△	△	△			●	
		KORIYAMA			-	-			△	●

図 237. 私、昨日東京へ行ったんだッケ
[行ったんだよ]

【凡 例】

- 言う
- △ 聞く(自分は言わない)
- 聞いたことがない

半沢康・武田拓作成 2005.10

「阿武隈急行グロットグラム調査報告 (1)」より
(半沢康・武田拓、2005 年、『福島大学研究年報』1 号所収)
https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~p002/2003AbuQ_GL.pdf

全国の方言は標準語化が進んでいますが、若い世代で方言独特の新しい表現が生まれることもあります。そのような表現を新方言といいます。福島語における新方言の代表例が説明の「んだっけ」です。

左ページの図は、福島県北部の福島市から県中央部の郡山市にかけて、鉄道の駅ごとに各地点の各世代の人に説明の「んだっけ」を使うか調査したものです。説明の「んだっけ」を使う話者は 1960 年代以降に生まれた人で、特に 1980 年代生まれ（現在の 40 代）の世代で一般化していることがわかります。このように、若い世代で新たに生まれた方言も存在します。

2. 終助詞「べした」【高・中】

標準語の「じゃないか」にあたる終助詞として「べした」が使われます。‘昨日、約束したじゃないか’のように相手に確認を求める場合や、‘なかなかいい車じゃないか’のように驚きを表す場合に使われます。

昨日 約束したべした ‘昨日、約束したじゃないか（確認）’

なかなか いい 車だべした

‘なかなかいい車じゃないか（驚き）’

練習問題 2

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) おめえは子どもだから、酒飲まんにいべした。
- 2) 謝んねえと、やべえべした。
- 3) あれっ、雨降ってっぺした。

練習問題 3

次に示す標準語の文を「べした」を使った福島語の文に直しなさい。

- 1) 先生に何度も言われたじゃないか。
- 2) その髪型、似合ってるじゃないか。
- 3) このお菓子、意外とうまいじゃないか。

3. 一時的状態を表す「～くている」【高・中】

形容詞は進行形の「～くている」という形で一時的な状態を表します。「～くている」の過去形は「～くていた」です。次の例では「(一時的に) 怖かった (けど、今は怖くない)」ということが表現されます。() に書いたニュアンスは「～くている」に独特のもので、標準語には直訳できません。

おれ 運転すんの おっかなくて いた

‘私は運転するのが怖かった’

「幽霊はおっかねえ」のように恒常的な特性を表すときに「～くている」を使うことはありません。また、「～くている」の主語は生物に限られます。「外は寒い」のような無生物主語の形容詞文で「くている」を使うことはありません。形容詞と同じ活用をする希望表現「～たい」にも「～くている」の形があります。

その お菓子 食べたくて いたんだ

‘そのお菓子、食べたかったんだ’

動詞の否定形で使われる「～ねえ」が一時的状態を表す場合、「～ねえでいる」と「～ねくている」の2つの表現があります。この2つの表現は標準語の「～ないでいる」に相当します。意図的なことを表す場合には「～ねえでいる」、非意図的なことを表す場合には「～ねくている」を使うのが一般的です。

亮太 来るまで 酒 飲まねえでいる。

‘亮太が来るまで酒を飲まないでいる (意図的)’

亮太 来たのに 気づかねくている。

‘亮太が来たのに気づかないでいる (非意図的)’

練習問題 4

次の福島語の文のうち、「～くている」の使い方が誤っているものをすべて選びなさい。

- ア) 給料日前だから、亮太、お金なくっている。
- イ) 説明書なくして、パソコンの使い方わからなくっている。
- ウ) シンガポールは赤道直下だから冬でも雪降らなくっている。
- エ) 晃は生まれつき体大きくっている。
- オ) 隣のおじさん、二日酔いで具合悪くっている。

練習問題 5

例にならって、次に示す標準語の文を、一時的状態を表す「～くている」を使った福島語の文に直しなさい。

例) お年玉をもらって、うれしい。→ お年玉もらって、うれしくっている。

- 1) 昨日徹夜したから、眠い。
- 2) 一人ぼっちで、さみしかった。
- 3) 夏休みは旅行に行きたかったんだ。
- 4) 音が小さくて聞こえない。

コラム 他方言・他言語の一時的状態の表現

形容詞の進行形が一時的状態の意味を表す言語は福島語だけではなく、九州の一部の方言や英語にも似た例があります。

九州の一部の方言では「今日は寒かりよる」「私は悲しかりよる」のように形容詞の進行形「～かりよる」が一時的状態を表します。英語でも *He is kind*. ‘彼は優しい’ に対して *He is being kind today*. ‘彼は今日は (一時的に) 優しい’ のように形容詞の進行形 *be being ...* が一時的状態を表します。

実は標準語でも「今日はこたつで暖かくしている」のように「～くしている」を一時的状態の表現として使う人がいます。これらの表現の細かな特徴は言語や方言によって違いますが、形容詞の進行形で一時的状態を表現する傾向は様々な言語に共通するのかもしれませんが。

Lesson13 いいから飲まっせ。遠慮しらんな。

● 亮太 (30 代) は晃 (30 代) の家にお邪魔しました。晃の祖母の悦子さん (80 代) がお茶を出してくれました。

悦子さん： ほれ お茶 いっちゃから 飲まんしょ。

hore o^qya eccya=^kkara nomaNsyō

亮太： いやあ 悪いです。

iyaa warui=desu

悦子さん： いいから 飲まっせ。 遠慮しらんな。

ee=^kkara nomasse enryo=suraNna

晃 おめえも 飲めよ。

a^kkira omee=mo nome=yo

晃： うん。 あ なんか お菓子も

uN a naN=ka o^kkasi=mo

持って きて くんにかい？

motte kite kuNnii=^kkai

♪ 音読のポイント

母音に挟まれた ^k, ^t, ^c の音を [g], [d], [z] と発音すると福島語らしくなります

■ 単語と表現

ほれ hore ‘ほら’ (感動詞)	飲まっせ nomasse
飲まんしょ nomaNsyō	‘飲んで’ (勧めの表現)
‘飲んで’ (勧めの表現)	しらんな suraNna
	‘しないで’ (禁止の表現)

[復習ポイント]

‘(お茶を) いれた’ は ret → ccy の音韻規則 (Lesson4) が適用されて「いっちゃ」になります。‘くれない’ は rene → Nni の音韻規則 (Lesson8) が適用されて「くんにかい」になります。

1. 命令形【高・中】

相手に行動を促すときに使う基本の表現は命令形です。親しい友人や年下の家族に対しては命令形で行動を促します。

おめえも 飲めよ。‘お前も飲めよ。’

命令形の形は標準語とほぼ同じですが、いくつかの動詞で標準語と異なります。「来る」の命令形は「来 (こ) お」、「くれる」の命令形は「けろ」です。

学校さ 来^こお。‘学校に來い。’

おれさ けろ。‘私にくれ。’

福島語の命令形は上昇イントネーションになることがあります。標準語の命令形と同じように、下降イントネーションだとその行動を強制する意味になりますが、上昇イントネーションだと強制せず任意で行動を促す意味になります。下の例だと、上昇イントネーションの「飲め^ろ」は標準語の‘飲め’よりは‘飲んで’‘飲みな’に近い優しいニュアンスを持ちます。

必ず この薬 飲め^ろ。‘必ずこの薬を飲め。’ (強制的)

よかったら お茶 飲め^ろ

‘よかったらお茶を飲んで。’ (任意的)

練習問題 1

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 学校終わったら、早く家さ帰って来 (こ) お。
- 2) おれさもプレゼントけろ。

コラム 「くれる」の命令形

世の中では“方言は標準語が崩れたもの”と誤解されることもありますが、方言はその地域で独自に発達したものであって、標準語が崩れて生まれたものではありません。標準語は明治以降の近代化の過程で生まれた新しいことばです。どちらかといえば方言のほうが伝統的なことばで、南関東の方言を基盤に、全国の方言の特徴が集まって生まれたのが標準語です。

標準語のほうが“崩れている”といえる文法現象もあります。標準語も福島語も、基本形が「～れる」で終わる動詞の命令形は「～れろ」になるのが規則です。しかし、標準語の「くれる」の命令形は「くれ」という不規則な形になります。福島語の「くれる」の命令形「けろ」はもともと「くれろ」が縮まった形なので、命令形が「～れろ」になるという規則には従っています。

基本形	標準語の命令形	福島語の命令形
入れる	入れろ	入れろ
慣れる	慣れろ	慣れろ
ずれる	ずれろ	ずれろ
くれる	くれ	けろ（くれろ）

標準語に慣れた人は福島語の「けろ」をおかしな形と思うかもしれませんが、むしろ標準語の「くれ」のほうが規則から外れた“崩れた”形かもしれません。

2. 依頼の表現【高】

自分に利益のあることを依頼する場合、「てくれる」を含む表現がよく使われます。例えば、動詞「飲む」の場合、「飲んでくれる」を命令形にした「飲んでけろ」、疑問文にした「飲んでくれっかい?」「飲んでくんにかい?」などが使われます。丁寧な依頼表現として「飲んでくなんしょ」もあります。

飲んでけろ。‘飲んでくれ。’

飲んでくれっかい? ‘飲んでくれますか?’

飲んでくんにかい? ‘飲んでくれませんか?’

飲んでくなんしょ。‘飲んでください。’

個人差はかなり大きいですが、下で示す勧め表現とあわせて示すと、これらの依頼表現は話し相手によっておおむね次のように使い分けられます。

話し相手	依頼（自分に利益）	勧め（相手に利益）
目上～同等	飲んでくなんしょ 飲んでくんにかい? 飲んでくれっかい?	飲まんしょ
同等～目下	飲んでけろ	飲まっせ
同等・目下の 親しい相手	飲め	飲め

練習問題 2

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) わかんねえときは、教（おせ）てけろ。
- 2) 時間になったら呼んでくれっかい?
- 3) そこのティッシュとってくんにかい?
- 4) おれさもその写真見せてくなんしょ。

練習問題 3

次に示す標準語の文を福島語の文に直しなさい。

- 1) 謝るから許してくれ。
- 2) 私の話を聞いてくれますか?
- 3) ここで待っててくれませんか?
- 4) 私をその車に乗ってください。

3. 勧めの表現【高】

相手に利益のあることを勧める場合には「っせ形」「んしょ形」が使われます。「っせ形」より「んしょ形」のほうが丁寧な表現です。標準語に直訳しにくいですが、例えば「飲まっせ」「飲まんしょ」は「飲みな」「飲んで」「飲んでください」に近い意味を表します。

お茶 飲まっせ／飲まんしょ。

‘お茶を飲みな／飲んでください。’

「っせ形」「んしょ形」は、四段動詞の語幹に-asse、-aNsyο、それ以外の動詞の語幹に-sse、-raNsyο という接尾辞が接続した形です（四段動詞、一段動詞については Lesson7 のコラム参照）。

	っせ形	んしょ形
四段動詞「飲む」	飲まっせ nom-asse	飲まんしょ nom-aNsyο
一段動詞「起きる」	起きっせ oki-sse	起きらんしょ oki-raNsyο
カ変動詞「来る」	来（き）っせ ki-sse	来（こ）らんしょ ko-raNsyο
サ変動詞「する」	しっせ su-sse	しらんしょ su-raNsyο

一段動詞とカ変動詞の「っせ形」は「起きらっせ」「来（こ）らっせ」を使う人もいます。

練習問題 4

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 暑いから、上着脱がっせ。
- 2) 心配なことあったら、この番号さ電話しっせ。
- 3) じいちゃんもこっちさ来てテレビ見らんしょ。
- 4) さみしいときは、いつでもここさ来（こ）らんしょ。

練習問題 5

次に示す標準語の勧めの文を「っせ形」か「んしょ形」を使った福島語の文に直しなさい。

- 1) もう遅いから帰るな。

- 2) いい天気だから、カーテンを開けな。
- 3) あとで私の部屋に来な。
- 4) 休みの日くらいゆっくりしな。

4. 禁止の表現【高】

相手の行動を止める禁止の表現には、標準語と同じ「な形」のほか、「な形」より丁寧な「んな形」があります。基本形が「る」で終わる動詞の場合、「な形」には、run → Nn の音韻規則（Lesson5）が適用されます。「んな形」は四段動詞の語幹に-aNna、それ以外の動詞の語幹に-raNna という接尾辞が接続した形です。

	な形	んな形
四段動詞「飲む」	飲むな nom-una	飲まんな nom-aNna
四段動詞「取る」	取んな tor-una → toNna	取らんな tor-aNna
一段動詞「起きる」	起きんな oki-runna → okiNna	起きらんな oki-raNna
カ変動詞「来る」	来（く）んな ku-runna → kuNna	来（こ）らんな ko-raNna
サ変動詞「する」	すんな su-runna → suNna	しらんな su-raNna

遠慮すんな ‘遠慮するな’ 遠慮しらんな ‘遠慮しないで’

「な形」「んな形」とも同等・目下の相手に使われます。「んな形」のほうが丁寧で、女性に使われやすい表現です。やや距離のある相手や目上の相手には、「飲まねえでくなんしょ」「飲まねえでくんにかい？」のように否定の依頼表現、「飲まねえほうがいいぞい」のような婉曲的な表現が使われます。

練習問題 6

次に示す標準語の禁止の文を「んな形」を使った福島語の文に直しなさい。

- 1) ここに荷物を置くな。
- 2) 寒いから窓を開けるな。
- 3) 危ないから来るな。
- 4) ケガをしてるんだから、無理するな。

おわりに（福島語）

福島県内で生まれ育ったから、おれんとこ育ててくっちゃ人らのことばは、都会の気どった標準語じゃねえ。土くせえ福島のことばだったんだよな。大学さ入って日本語学とか言語学とかの勉強はじめた。そんなとき、その土くせえことばにも標準語みてえに立派な文法規則があるつつうのがわかったんだよ。

おれの母語は福島のことばだ。それからずっと、福島のことばについて、ことばの仕組みをちゃんとわかるようにして、他の言語とか方言と同じような教科書を作ってみてえと思ってきたんだよ。研究に完成つつうものはねえから、わかってねえこともうんとあんだけんと、今んところ書けることをまとめて、一応の教科書にした。

大学の授業で、この教科書使って福島語教室やってみた。楽しかった。学生のみんなの反応が楽しくて、この教科書作ることができたんだと思う。ありがてえ話だ。

おわりに（標準語）

福島県内で生まれ育ちましたので、私を育ててくれた人たちのことばは、都会のとりすました標準語ではなく、土くさい福島のことばでした。大学で日本語学、言語学という分野の学問にふれ、その土くさいことばにも標準語と同じように立派な文法規則があることを知りました。

それ以来、自分の母語である福島のことばについて、言語としての仕組みを解き明かし、他の言語や方言と同じような教科書を作りたいと思ってきました。研究に完成というものはありませんから、未解明なことがたくさんあるのですが、現時点で書けることを教科書という形でまとめました。

この教科書を使った福島語教室の実践を大学の授業として試みました。受講生のみなさんの反応を楽しみにこの教科書を作ることができました。お礼申し上げます。

著者略歴

白岩広行（しらいわひろゆき）

立正大学文学部文学科日本語日本文学専攻コース准教授
博士（文学・大阪大学）

1982 年 福島県伊達郡保原町（現・伊達市）で生まれる

2001 年 福島県立福島高等学校卒業

2005 年 大阪大学文学部卒業

2011 年 大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了

2011 年～2013 年 大阪大学大学院文学研究科助教

2013 年～2017 年 上越教育大学大学院学校教育研究科講師

2017 年～2021 年 立正大学文学部専任講師

2021 年より現職

基礎から学ぶ福島語（日本語福島県北部方言）

2024 年 4 月 13 日版

立正大学での授業をもとに 2021 年 1 月 28 日公開

青山学院大学での授業をもとに 2021 年 7 月 16 日改訂

練習問題の解答例を追加して 2024 年 4 月 13 日改訂

著者 白岩広行

発行元 立正大学文学部白岩広行研究室

〒141-8602

東京都品川区大崎 4-2-16

<https://h-shiraiwa.sakura.ne.jp/>

※ この教科書の内容は今後も改訂を続ける予定です。ご意見をお待ちしております。著者の連絡先メールアドレスは下記のとおりです。

shiraiwa（アットマーク）ris.ac.jp

基礎から学ぶ

福島語

(日本語福島県北部方言)

解答例

Lesson2 文字・母音

■練習問題

この練習問題で挙げる語は、福島語と標準語で共通して使われる語です。これらの語について以下の問いに答えなさい。なお、アクセントの違いは考慮に入れないものとします。

問1 次の語のうち、福島語で「橋（はし）」と発音上の区別がない語を1つ選びなさい。

ア) 蓮（はす） イ) 星（ほし） ウ) 恥（はじ） エ) 節（ふし）

[解答] ア)

[解説] 「し」と「す」の区別がないので、「橋」と「蓮」は同じ発音です。

問2 次の語のうち、福島語で「染み（しみ）」と発音上の区別がない語を1つ選びなさい。

ア) 地味（じみ） イ) 締め（しめ） ウ) 炭（すみ） エ) 島（しま）

[解答] ウ)

[解説] 「し」と「す」の区別がないので、「染み」と「炭」は同じ発音です。

問3 次の語のペアのうち、福島語で発音上の区別がなくなる語のペアを1つ選びなさい。なお、アクセントは考慮に入れないものとします。

ア) ネジ／虹（にじ） イ) 数（かず）／風（かぜ）
ウ) 味（あじ）／痣（あざ） エ) 地面（じめん）／図面（ずめん）

[解答] エ)

[解説] 「じ」と「ず」の区別がないので、「地面」と「図面」は同じ発音です。

問4 次の語のペアのうち、福島語で発音上の区別がなくなる語のペアをすべて選びなさい。なお、アクセントは考慮に入れないものとします。

ア) 寿司 (すし) / 獅子 (しし) イ) 星 (ほし) / 腰 (こし)
ウ) S (エス) / 椅子 (いす) エ) 灰 (はい) / 蠅 (はえ)
オ) 癖 (くせ) / 串 (くし) カ) 知恵 (ちえ) / 杖 (つえ)

[解答] ア)、ウ)、エ)、カ)

[解説]

「し」と「す」の区別がないので、「寿司」と「獅子」は同じ発音です。「い」と「え」の区別がないので、「S」と「椅子」、「灰」と「蠅」は同じ発音です。「ち」と「つ」の区別がないので、「知恵」と「杖」は同じ発音です。

Lesson3 子音・アクセント

■練習問題 1

次に挙げる語のうち、k の音が [g] で発音されうるものをすべて選びなさい。

ア) 明かり (akari) イ) 亀 (kame) ウ) 裸 (hadaka)
エ) 天気 (teNki) オ) 鴨 (kamo)

[解答] ア)、ウ)

[解説] 母音に挟まれた k の音は [g] で発音されることが多いです。

■練習問題 2

次に挙げる語のうち、g の音が鼻に抜ける音の [ŋ] で発音されるものをすべて選びなさい。

ア) 黄金 (kogane) イ) 考え (kaNgae) ウ) 柄 (gara)
エ) 下駄 (geta) オ) 卵 (tamago)

[解答] ア)、イ)、オ)

[解説] 母音間、および、「ん」の後では g の音が [ŋ] で発音されます。

■練習問題 3

次に挙げる語のうち、t の音が [d] で発音されうるものをすべて選びなさい。

ア) 音 (oto) イ) 手前 (temae) ウ) 軍手 (guNte)
エ) 表 (omote) オ) 綿 (wata)

[解答] ア)、エ)、オ)

[解説] 母音に挟まれた t の音は [d] で発音されることが多いです。

■練習問題 4

次に挙げる語のうち、c の音が [z] で発音されうるものをすべて選びなさい。

- ア) 狐 (kicune) イ) 夏 (nacu) ウ) ごつつおう (goccoo)
エ) おんつあま (oNcama) オ) 月 (cuki)

[解答] ア)、イ)

[解説] 母音に挟まれた c の音は [z] で発音されることが多いです。

Lesson4 宿題忘っちゃえ、怒らっちゃ。

■練習問題 1

次に示す文は、上に挙げた会話例の続きで、じいちゃんのしゃべったものです。これらの文のうち 1 人称代名詞が使われているものをすべて選びなさい。

- ア) 大丈夫だ。おれも亮太も、ほどほどにする。
イ) 高橋先生は、おめえの担任だったな。
ウ) 先週、スーパーでたまたまあの人見かけたんだ。
エ) おら、久しぶりだからあいさつしたかったんだ。
オ) でも、人混みがひどくて、先生見失っちゃった。

[解答] ア)、エ)

[解説]

ア) では「おれ」「私」、エ) では「おら」「私は」という 1 人称代名詞が使われています。イ)「おめえ」「お前」は 2 人称代名詞です。3 人称の人物はウ)「あの人」のように指示語（こそあどことば）を使うか、オ)「先生」のように具体的な呼び名で呼びます。

■練習問題 2

次に示す文のうち、[] で示した名詞に複数を表す「ら」をつけられるものをすべて選びなさい。文の内容にあわせて考えること。

- ア) 薬局で [マスク] 何枚も買ってきた。
イ) [五十嵐さん]、家族で旅行から帰ってきた。
ウ) この店、[バイトの人] 全員忙しそうだ。
エ) 二瓶さん夫婦は [子ども] ひとりだけいる。
オ) 暖かくなって、あっちでもこっちでも [花] 咲いた。

[解答] イ)、ウ)

[解説]

福島語の複数形「ら」は、標準語と同じく、人間を表す名詞につきます。エ) の「子ども」は人間を表しますが、「ひとりだけ」ですから、「ら」はつきません。

■練習問題 3

例にならって、ア)～ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘赤い’ akac → あけえ ア) ‘長い’ nagac →

イ) ‘少ない’ sukunac → ウ) ‘硬い’ katac →

[解答]

ア) なげえ イ) すくねえ ウ) かてえ

[解説]

ac → ee という音韻規則がはたらきます。

■練習問題 4

例にならって、ア)～ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘寝るか’ neru=ka → ねっか ア) ‘掘るから’ horu=kara →

イ) ‘見ると’ miru=to → ウ) ‘座るとき’ suwaru=to →

[解答]

ア) ほっから イ) みっと ウ) すわっとき

[解説]

ru=k → k=k、ru=t → t=t という音韻規則がはたらきます。

■練習問題 5

例にならって、ア)～ウ) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘暴れた’ abareta → あばっちゃ ア) ‘とられた’ torareta →

イ) ‘見られて’ mirarete → ウ) ‘倒れてる’ taoreteru →

[解答]

ア) とらっちゃ イ) みらっちゃ ウ) たおっちえる

[解説]

ret → ccy という音韻規則がはたらきます。

Lesson5 おれんとこ男前に撮れよ。

■練習問題 1-1

次に挙げる語のうち、k の音が [g] で発音されないものをすべて選びなさい。

ア) 明かり (akari) イ) 光 (hikari) ウ) 抜ける (nukeru)

エ) 叱る (sukaru) オ) 力 (cukara) カ) 深い (hukae)

[解答] イ)、エ)、オ)、カ)

[解説]

福島語では母音に挟まれた k の音は基本的に [g] で発音されますが、次の条件がそろったとき、3 音目の k は [k] のまま発音されます。

k、s、c、h、p (無声子音)	i、u (狭母音)	k、t	a、e、o (広母音)
1 音目	2 音目	3 音目	4 音目

■練習問題 1-2

次に挙げる語のうち、t の音が [d] で発音されないものをすべて選びなさい。

ア) ふとん (hutoN) イ) 形 (katacu) ウ) 見た (mita)

エ) 硬い (katac) オ) 下 (suta) カ) 来た (kita)

[解答] ア)、オ)、カ)

[解説]

福島語では母音に挟まれた t の音は基本的に [d] で発音されますが、上の練習問題 1-1 の解説の表の条件がそろったとき、3 音目の t は [t] のまま発音されます。

■練習問題 2

次の福島語の文について、主語と目的語はどの語か答えなさい。目的語がない場合は「ない」と答えること。

例) 田中さん、宝くじあてた。 主語は「田中さん」、目的語は「宝くじ」

ア) ばあちゃん、台所で煮物作ってる。

イ) この車、おれ、夏休みに買ったんだ。

ウ) 子どもら、プールで元気に騒いでる。

エ) じいちゃん、おめえんどこ待ってたぞ。

[解答]

ア) 主語は「ばあちゃん」、目的語は「煮物」

イ) 主語は「おれ」、目的語は「この車」

ウ) 主語は「子どもら」、目的語はない

エ) 主語は「じいちゃん」、目的語は「おめえ」

[解説]

福島語では「が」「を」のような格助詞は基本的に使われません。人間などの生物が主語、無生物が目的語と解釈されます。そのため、ア)、イ)の主語と目的語は格助詞「が」「を」がなくても判別できます。ウ)は自動詞の文なので、目的語はありません。

エ)のように生物(人間)が2つ出てくる場合は、「んどこ」がつくのが目的語、何もつかないのが主語です。

■練習問題3

次の標準語の文を「が」「を」を使わず、必要に応じて「んどこ」を使った福島語の文に直しなさい。これまでの単元で習った内容も反映すること。

例) 私を覚えているか?→おれんどこ覚えてっか?

ア) じいちゃんが酒を飲んでる。

イ) ばあちゃんが亮太を見てる。

ウ) 知美が私を忘れている。

[解答]

ア) じいちゃん、酒飲んでる。

イ) ばあちゃん、亮太んどこ見てる。

ウ) 知美、おれんどこ忘っちえる。

[解説]

主語、目的語に「が」「を」を使わないと福島語の文らしくなります。生物(人間)が2つ出てくる場合は、目的語に「んどこ」をつけましょう。

ウ)「忘れてる」はLesson4で習ったret → ccyという音韻規則を適用して「忘っちえる」にすると福島語らしくなります。

■練習問題4

例にならって、ア)～ウ)の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘晴れるな’ hareru=na → はれんな

ア) ‘起きるの’ okiru=no →

イ) ‘寝るもんだ’ neru=moN=da →

ウ) ‘降るんだ’ huru=N=da →

[解答]

ア) おきんの イ) ねんもんだ ウ) ふんだ

[解説]

ru=N → N という音韻規則がはたらきます。

Lesson6 ばあちゃんさままでおる買ってきた。

■練習問題 1

この授業で示した福島語の規則にしたがうと、次の文では格助詞「に」「さ」のどちらを使うのが適切か答えなさい。

- 1) 帰る時間 {に／さ} なった。
- 2) 泥棒 {に／さ} 財布とらっちゃ。
- 3) じいちゃんは、戦争のとき、台湾 {に／さ} いた。
- 4) ばあちゃん、買い物 {に／さ} 出かけた。
- 5) 親戚の人 {に／さ} 稲刈り手伝ってもらった。
- 6) おれ、亮太 {に／さ} プレゼント渡した。
- 7) おれ、亮太 {に／さ} プレゼントもらった。
- 8) 先生 {に／さ} 怒らっちゃ。
- 9) 5時 {に／さ} 家 {に／さ} 戻ってきた
- 10) 岩瀬書店 {に／さ} 本買い {に／さ} 行った。

[解答]

- 1) 帰る時間【に】なった。
- 2) 泥棒【に】財布とらっちゃ。
- 3) じいちゃんは、戦争のとき、台湾【さ】いた。
- 4) ばあちゃん、買い物【さ】出かけた。
- 5) 親戚の人【に】稲刈り手伝ってもらった。
- 6) おれ、亮太【さ】プレゼント渡した。
- 7) おれ、亮太【に】プレゼントもらった。
- 8) 先生【に】怒らっちゃ。
- 9) 5時【に】家【さ】戻ってきた
- 10) 岩瀬書店【さ】本買い【さ】行った。

[解説]

この教科書で習ったとおりに「に」と「さ」を使い分けると上のようになります。ただし、福島県内でも使い分けには個人差があります。なお、「岩瀬書店」は福島県内でチェーン展開する書店です。

■練習問題 2

次に示す標準語の文を、「です」「ます」を使わずに、終助詞「い」を使って福島語の丁寧な文に直しなさい。これまでの単元で習った内容も反映すること。

例) お茶、飲みますか? → お茶、飲むかい?

- 1) いい天気ですね。
- 2) コーヒー、ありますか?
- 3) いつ寝たんですか?
- 4) この団子、おいしいですよ。
- 5) 吉江さんは新年会に行きましたか?
- 6) 明日は出張ですから、6時に起きますね。

[解答]

- 1) いい天気だない。
- 2) コーヒー、あっかい?
- 3) いつ寝たんだい?
- 4) この団子、んめえぞい。／んめえわい。
- 5) 吉江さんは新年会さ行ったかい?
- 6) 明日は出張だから、6時に起きんない。

[解説]

「です」「ます」を使わずに、文末に「い」をつけると丁寧な文になります。6) 「出張ですから」のように文末でない箇所には「い」はつきません。文末に「い」をつけるだけにしましょう。

2) では ru=k → k=k の音韻規則がはたらいて「あるかい」が「あっかい」になります。4) 「おいしい」は Lesson4 で習った「んめえ」を使うと福島語らしくなります。「よ」に「い」はつかないので、文末は「ぞい」か「わい」を使います。5) の「新年会に」は「新年会さ」と言う福島語らしくなります。6) では ru=n → N=n の音韻規則がはたらいて「起きるない」が「起きんない」になります。

Lesson7 スマホの使い方がわかんねえな。

■練習問題1

次の動詞を「ねえ」を使った否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) おす (押す) → おさねえ

- 1) のむ (飲む) 2) おく (置く) 3) かう (買う) 4) みる (見る)
5) あける (開ける) 6) くる (来る) 7) そうじする (掃除する)

[解答]

- 1) のまねえ 2) おかねえ 3) かわねえ 4) みねえ
5) あけねえ 6) こねえ 7) そうじしねえ

[解説]

標準語の「ない」と同じように「ねえ」を使います。

■練習問題2

次の動詞を「ねかった」を使った過去否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) おす (押す) → おさねかった

- 1) とぶ (飛ぶ) 2) およぐ (泳ぐ) 3) すう (吸う) 4) にる (煮る)
5) まぜる (混ぜる) 6) くる (来る) 7) よやくする (予約する)

[解答]

- 1) とばねかった 2) およがねかった 3) すわねかった 4) にねかった
5) まぜねかった 6) こねかった 7) よやくしねかった

[解説]

標準語の「なかった」と同じように「ねかった」を使います。

■練習問題3

次の語句を「ねえ」を使った否定の形にしてひらがなで書きなさい。

例) やすい (安い) → やすくねえ

- 1) うすい (薄い) 2) ひろい (広い) 3) ひくい (低い)
4) げんきだ (元気だ) 5) がくせいだ (学生だ)

[解答]

- 1) うすくねえ 2) ひろくねえ 3) ひくくねえ
4) げんきでねえ 5) がくせいでねえ

[解説]

形容詞では、標準語の「～くない」と同じように「～くねえ」を使います。形容動詞と名詞では、標準語の「～ではない」と同じように「～でねえ」を使います。

■練習問題4

次の語句を「ねかった」を使った過去否定の形にしてひらがなで書きなさい。

例) やすい (安い) → やすくねかった

- 1) あつい (暑い) 2) とおい (遠い) 3) ふるい (古い)
4) ひまだ (暇だ) 5) やすみだ (休みだ)

[解答]

- 1) あつくねかった 2) とおくねかった 3) ふるくねかった
4) ひまでねかった 5) やすみでねかった

[解説]

形容詞では、標準語の「～くなかった」と同じように「～くねかった」を使います。形容動詞と名詞では、標準語の「～ではなかった」と同じように「～でねかった」を使います。

■練習問題5

次の動詞を「ねえ」を使った否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) わかる (分かる) → わかんねえ

- 1) おる (折る) 2) つる (釣る) 3) まわる (回る)

[解答]

- 1) おんねえ 2) つんねえ 3) まわんねえ

[解説]

ran → Nn の音韻規則がはたらきます。

■練習問題 6

次の動詞を「ねかった」を使った過去否定形にしてひらがなで書きなさい。

例) わかる (分かる) → わかんねかった

1) ほる (掘る) 2) なる (鳴る) 3) かわる (変わる)

[解答]

1) ほんねかった 2) なんねかった 3) かわんねかった

[解説]

ran → Nn の音韻規則がはたらきます。

■練習問題 7

例にならって ni_n, no_n → N_n の音韻規則を適用し、1) ～4) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。

例) ‘大人になる’ otona=ni naru → おとななる

1) ‘世話になった’ sewa=ni natta →

2) ‘夕方になる’ yuugata=ni naru →

3) ‘部屋のなか’ heya=no naka →

4) ‘心のなか’ kokoro=no naka →

[解答]

1) せわんなった 2) ゆうがたんなる 3) へやんなか 4) こころんなか

[解説]

ni_n, no_n → N_n の音韻規則がはたらきます。

Lesson8 車で来てっから飲まんにい。

■練習問題 1

例にならって次の福島語の文を標準語に訳しなさい。

例) おれは難しい漢字、書かれる。 → 私は難しい漢字が書ける。

1) 鳥は羽あっから空飛ばれる。

2) あの人は金持ちだから、なんでも買われる。

[解答]

1) 鳥は羽があるから空を飛べる。

2) あの人は金持ちだから、なんでも買える。

[解説]

標準語に訳すときは、主語と目的語に「が」「を」をつけるとよいでしょう。

■練習問題 2

例にならって rene, rine → Nni の音韻規則を適用し、1) ～8) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。‘ ’ で示したのは標準語訳である。

例) ‘倒れない’ taorenee → たおんにい

1) ‘折れない’ orenee →

2) ‘外れない’ hazurenee →

3) ‘出られない’ derarenee →

4) ‘書けない’ kakarenee →

5) ‘折れなかった’ orenekatta →

6) ‘下りなかった’ orinekatta →

7) ‘着られなかった’ kirarenekatta →

8) ‘飛べなかった’ tobarenekatta →

[解答]

1) おんにい 2) はずんにい 3) でらんにい 4) かかんにい

5) おんにかった 6) おんにかった 7) きらんにかった 8) とばんにかった

[解説]

rene, rine → Nni の音韻規則がはたらきます。5) ‘折れなかった’ と 6) ‘下りなかった’ は、どちらも「おんにかった」になります。

■練習問題 3

例にならって次の福島語の文を標準語に訳しなさい。

例) おれは難しい漢字、書かんにい。 → 私は難しい漢字が書けない。

- 1) 人の名前なかなか覚えらんにい。
- 2) 部屋暗くて、本読まんにかった。
- 3) 人ごみで誰かに足踏まっちゃ。
- 4) 成績よくて、学校で表彰しらっちゃ。

[解答]

- 1) 人の名前がなかなか覚えられない。
- 2) 部屋が暗くて、本が読めなかった。
- 3) 人ごみで誰かに足を踏まれた。
- 4) 成績がよくて、学校で表彰された。

[解説]

4) 「しらっちゃ」は標準語の「された」にあたります。主語と目的語には「が」「を」をつけるとよいでしょう。

■練習問題 4

例にならって 1) ～10) の標準語の受身や可能の表現を福島語に直してひらがなで書きなさい。「(ら) れる」の形を使い、rene → Nni ないし ret → ccy の音韻規則を適用すること。

例) ‘飲めない’ → のまんにい

- 1) ‘押せない’ 2) ‘貼れない’ 3) ‘起きられない’ 4) ‘運転できない’
- 5) ‘立てなかった’ 6) ‘開けられなかった’ 7) ‘来られなかった’
- 8) ‘恨まれた’ 9) ‘取られた’ 10) ‘ほめられた’

[解答]

- 1) おさんにい 2) はらんにい 3) おきらんにい 4) うんてんしらんにい

5) たたんにかった 6) あけらんにかった 7) こらんにかった

8) うらまっちゃ 9) とらっちゃ 10) ほめらっちゃ

[解説]

このような「んにい」や「っちゃ」といった表現を使いこなせると、かなり流暢な福島語を使っている実感がわきます。

■練習問題 5

例にならって次の福島語の文を標準語に訳しなさい。

例) 魚釣んねかった。 → 魚を釣らなかった。

- 1) 目つぶんねかった。 2) 店つぶんにかった。
- 3) りんご売んねえ。 4) りんご売んにい。

[解答]

- 1) 目をつぶらなかった。 2) 店がつぶれなかった。
- 3) りんごを売らない。 4) りんごが売れない。

[解説]

この練習問題のように、「んねえ」と「んにい」は、形は似ていますが、意味が全く違うことがあります。福島語の母語話者は、これを区別して理解しています。

Lesson9 しみみちも、んまいかったな。

■練習問題 1

例にならって、次の形容詞の基本語幹をひらがなで書きなさい。

例) んまかった→んま

- 1) うすい 2) ひろい 3) ふかかった 4) さむかった 5) くるしかった
6) あかく 7) たのしく 8) ねむく

[解答]

- 1) うす 2) ひろ 3) ふか 4) さむ 5) くるし
6) あか 7) たのし 8) ねむ

[解説]

基本語幹は標準語と共通しています。標準語では、とても薄いことに驚いて「うすっ！」などと言うときに、この基本語幹を使います。なお、「うすっ！」のような表現は、もともと関西でよく使われていたもののようで、東京では特に若い人の間で広まった表現のようです。福島でも、お年寄りは「うすっ！」のような表現はほぼ使いません。

■練習問題 2

例にならって、次の福島語の形容詞の表現を標準語に直してひらがなで書きなさい。なお、中止形には「ねえ」をつけて否定の表現にしてある。

例) たけえ→たかい たけくねえ→たかくない

- 1) あめえ 2) かれえ 3) すくねえ 4) あけかった 5) なげかった
6) おもてかった 7) わけくねえ 8) あぶねくねえ 9) いてくねえ

[解答]

- 1) あまい 2) からい 3) すくない 4) あかかった 5) ながかった
6) おもたかった 7) わかくない 8) あぶなくない 9) いたくない

[解説]

第二語幹が使われた形容詞の例です。

■練習問題 3

例にならって、次の福島語の形容詞の表現を標準語に直してひらがなで書きなさい。なお、中止形には「て」をつけてある。

例) たかいかった→たかかった たかいくて→たかくて

- 1) ちかいかった 2) ふるいかった 3) ひどいかった
4) くらいくて 5) つよいくて 6) ねむいくて

[解答]

- 1) ちかかった 2) ふるかった 3) ひどかった
4) くらくて 5) つよくて 6) ねむくて

[解説]

第三語幹が使われた形容詞の例です。第三語幹が使われている福島語の例は、「い」をとれば標準語と同じ形になります。

Lesson10 雨やんだべ。畑さ出っぺ。

■練習問題 1

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 外は寒いべ。
- 2) おめえ、酒飲まんにいべ？
- 3) おれも先生さ本当のこと話すべ。
- 4) いっしょに駅まで歩くべ。
- 5) 外は雨だべから、傘差すべ。

[解答]

- 1) 外は寒いだろう。
- 2) お前、酒飲めないだろう？
- 3) 私も先生に本当のことを話そう。
- 4) いっしょに駅まで歩こう。
- 5) 外は雨だろうから、傘を差そう。

[解説]

2)「話すべ」、5)「傘差すべ」は自分の未来の行動、3)「歩くべ」は自分と相手の未来の行動を表すので、意志・勧誘の「(よ)う」と訳します。それ以外の「べ」は推量・確認の意味を表すので「だろう」と訳します。

■練習問題 2

次に示す標準語の文を「べ」を使った福島語の文に直しなさい。これまでの授業で習った内容も反映すること。

- 1) 明日は雪だろう。
- 2) ここのラーメン、うまいだろう？
- 3) 今年も先生に年賀状を書こう。
- 4) いっしょにあの敵を倒そう。
- 5) 明日は暑いだろうから、半そでの服を用意しておこう。

[解答]

- 1) 明日は雪だべ。
- 2) ここのラーメン、んめえべ？
- 3) 今年も先生さ年賀状を書くべ。
- 4) いっしょにあの敵倒すべ。／いっしょにあの敵んとこ倒すべ。
- 5) 明日は暑いべから、半そでの服用意しておくべ。

[解説]

これまで習った内容をもとに、「うまい」は「んめえ」、「先生に」は「先生さ」にしました。また、標準語で目的語につく格助詞「を」は使わないほうが福島語らしくなります。4)「あの敵」は、「あの敵んとこ」としたほうが目的語であることが明示できますが、文脈的に「んとこ」がなくても目的語と理解できます。

■練習問題 3

ru=z → c=c ないし ru=b → p=p の音韻規則を適用し、1)～8)の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。‘ ’で示したのは標準語訳である。

例) ‘出るぞ’ deru=zo → でつつお

‘出るだろう／出よう’ deru=be → でっぺ

- 1) ‘借りるぞ’ kariru=zo →
- 2) ‘見るぞ’ miru=zo →
- 3) ‘貼るぞ’ haru=zo →
- 4) ‘勉強するぞ’ beNkyoo=suru=zo →
- 5) ‘起きるだろう／起きよう’ okiru=be →
- 6) ‘折れるだろう’ oreru=be →
- 7) ‘降るだろう’ huru=be →
- 8) ‘我慢するだろう／我慢しよう’ gamaN=suru=be →

[解答]

- 1) かりつつお 2) みつつお 3) はつつお 4) べんきょうすつつお
- 5) おきっぺ 6) おれっぺ 7) ふっぺ 8) がまんすっぺ

[解説]

基底形の「るぞ」が表層形で「つつお」、基底形の「るべ」が表層形で「っぺ」になります。

■練習問題 4

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 車にひかれつつお。
- 2) 今度こそ勝ってやつつお。
- 3) おれがやんねくても、誰かやってくれっぺ。
- 4) おめえも気になっぺ？
- 5) おら、じいちゃんとお祝いすっぺ。
- 6) 雨降っぺから、折り畳み傘バッグさ入れっぺ。

[解答]

- 1) 車にひかれるぞ。
- 2) 今度こそ勝ってやるぞ。
- 3) 私がやらなくても、誰かがやってくれるだろう。
- 4) お前も気になるだろう？
- 5) 私は、じいちゃんをお祝いしよう。
- 6) 雨が降るだろうから、折り畳み傘をバッグに入れよう。

[解説]

これまで習ったとおり、3)「やんねくても」は「やらなくても」、5)「じいちゃんとお」は「じいちゃんを」、6)「バッグさ」は「バッグに」という意味です。標準語訳では、主語、目的語に「が」「を」をつけるとよいでしょう。

■練習問題 5

次に示す標準語の文を「ぞ」ないし「べ」を使った福島語の文に直しなさい。

「ぞ」「べ」には $ru=z \rightarrow c=c$ ないし $ru=b \rightarrow p=p$ の音韻規則を適用すること。

- 1) 絶対に合格するぞ。
- 2) ふざけてると怒るぞ。
- 3) 冷蔵庫にプリンがあるだろう。
- 4) お前もパーティーに来るだろう？

- 5) 今日は早く寝よう。

[解答]

- 1) 絶対に合格すつつお。
- 2) ふざけてっと怒つつお。
- 3) 冷蔵庫さプリンあっぺ。
- 4) おめえもパーティーさ来っぺ。
- 5) 今日は早く寝っぺ。

[解説]

これまで習ったことをもとに、2)「ふざけてると」は「ふざけてっと」、3)「冷蔵庫に」は「冷蔵庫さ」、4)「パーティーに」は「パーティーさ」と訳しました。主語、目的語につく「が」「を」は使わないほうが福島語らしくなります。

Lesson11 昨日はいたったけんちょも、今日はいたかな。

■練習問題 1

teta → tta の音韻規則を適用し、1) ～6) の基底形を表層形に直してひらがなで書きなさい。‘ ’ で示したのは標準語訳である。

例) ‘見ていた’ miteta → みった

1) ‘借りていた’ kariteta →

2) ‘置いていた’ oeteta →

3) ‘寝ていた’ neteta →

4) ‘開けていたら’ aketetara →

5) ‘書いていたら’ kaetetara →

6) ‘着ていたら’ kitetara →

[解答]

1) かりった 2) おいった 3) ねった

4) あけったら 5) かいたら 6) きったら

[解説]

基底形の「てた」が表層形で「った」になります。

■練習問題 2

次に示す福島語の文のうち「てた」の使い方が誤っているものを1つ選びなさい。なお、一部の文では teta → tta の音韻規則が適用されて「てた」が「った」になっている。

ア) いま、風呂沸いったから、早く入りな。

イ) 昨日の今ごろ、じいちゃん、テレビ見ったよ。

ウ) 晃、さっき、部屋で宿題やってた。

エ) 来週の週末は、おら、旅行さ行ってたぞ。

[解答] エ)

[解説]

福島語の「てた」は過去と現在を表します。ア) は現在、イ) は過去、ウ) は

直前の過去を表しているため、「てた」の使い方として誤りではありません。エ) は未来を表すため、「てた」を使うのは誤りです。

■練習問題 3

次に示す標準語の文のうち、「いる」を福島語で「いた」に置き換えられるものをすべて選びなさい。(できれば文全体を福島語に翻訳するとよい。)

ア) ホッキョクグマは北極にいる。

イ) 私はさっきからずっとここにいるよ。

ウ) 私は、来年の正月はハワイにいるんだ。

エ) 明日、家にはじいちゃんがいる。

オ) 晃は、いまどこにいるだろう。

[解答] イ)、オ)

[解説]

イ)、オ) は現在の一時的状態を表すので「いた」が使えます。ア) は恒常的状态を表し、ウ)、エ) は未来を表すので、「いた」が使えません。文全体を福島語に訳すと次のようになります。

ア) ホッキョクグマは北極さいる。

イ) おら、さっきからずっとここさいたよ。

ウ) おら、来年の正月はハワイさいんだ。

エ) 明日、家さはじいちゃんいる。

オ) 晃は、いまどこさいたべ。

■練習問題 4

次に示す福島語の文のうち、下線部の「た」を「たった」に置き換えられるものを2つ選んで記号で答えなさい。

ア) 昨日(きんにょう)は、時間どおりにバス来た。

イ) 風呂場さヤスデいた。今から退治すつお。

ウ) レポートの締切、たしか来週だったよな。

エ) 今月も売り上げ減ったなあ。なんとかしねえと。

オ) 昔は田んぼでイナゴとりしたもんだ。懐かしいなあ。

[解答] ア)、オ)

[解説]

ア)、オ) は過去のことを表すので「たった」が使えます。イ) はいまヤスデがいることに気づいたこと、ウ) はレポートの締切を思い出したことを表すため、「たった」が使えません。

エ) も売り上げが減っているという現在の状態を表すため「たった」が使えません。もし「たった」を使って「売り上げ減ったった」と言うと、すでに売り上げが回復したか、店を閉めたなどの理由で、売り上げが減った状態が過去のことになったことを表します。

■練習問題 5

次に示す福島語の文を標準語の文に訳しなさい。

- 1) 今ごろ、亮太は何しったかな。
- 2) 教室さ着いたとき、先生もう授業しったった。

[解答]

- 1) 今ごろ、亮太は何をしているかな。
- 2) 教室に着いたとき、先生がもう授業をした。

[解説]

1) は現在のことを表すので、標準語にするときは「いた」を「いる」と訳します。2) の「しったった」は基底形では「してたった」です。標準語では「たった」を使わないので、「してた」と訳します。

Lesson12 この車、新しく買ったんだっけ。

■練習問題 1

次に示す福島語の文を、文末の「んだっけ」が平板なイントネーションで発音されたものとして、標準語の文に直しなさい。

- 1) あいつ、教室で暴っちえ先生に怒らっちゃんだっけ。
- 2) 部屋暗（くれ）えから、本読まんにいんだっけ。
- 3) この写真さ写ってんの、晃の妹なんだっけ。

[解答]

- 1) あいつ、教室で暴れて先生に怒られたんだ（よ）。
- 2) 部屋が暗いから、本が読めないんだ（よ）。
- 3) この写真に写っているのは、晃の妹なんだ（よ）。

[解説]

平板なイントネーションの「んだっけ」は、「んだよ」にあたる説明の意味で使われます。この教科書では終助詞「よ」をつけて標準語訳しましたが、「んだっけ」のニュアンスは標準語訳しにくいので、「よ」をつけなくてもよいかもしれません。

3) の「映ってんの」は、標準語では「は」をつけたほうが座りがよさそうなので「は」をつけて訳しました。

■練習問題 2

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) おめえは子どもだから、酒飲まんにいべした。
- 2) 謝んねえと、やべえべした。
- 3) あれっ、雨降ってっぺした。

[解答]

- 1) お前は子どもだから、酒は飲めないじゃないか。
- 2) 謝らないと、やばいじゃないか。
- 3) あれっ、雨が降ってるじゃないか。

[解説]

「べした（ぺした）」は標準語の「じゃないか」にあたります。よりくだけた表現として「じゃん」で訳してもよいでしょう。

1) の「飲まんにい」は Lesson8 で習ったように「飲めない」ということを表します。「酒」は、標準語では「は」をつけたほうが座りがよさそうなので「は」をつけて訳しました。ただし、標準語でも、くだけた場面では「酒飲めないじゃん」のように「は」をつけないことが多いと思います。

■練習問題 3

次に示す標準語の文を「べした」を使った福島語の文に直しなさい。

- 1) 先生に何度も言われたじゃないか。
- 2) その髪型、似合ってるじゃないか。
- 3) このお菓子、意外とうまいじゃないか。

[解答]

- 1) 先生に何度も言わっちゃべした。
- 2) その髪型、似合ってっぺした。
- 3) このお菓子、意外とんめえべした。

[解説]

これまで習ったとおり、1)「言われた」は「言わっちゃ」になります。
2) では ru=b → p=p の音韻規則がはたらき、基底形の「似合ってるべした」が表層形で「似合っぺした」になります。

■練習問題 4

次の福島語の文のうち、「～くている」の使い方が誤っているものをすべて選びなさい。

- ア) 給料日前だから、亮太、お金なくっている。
- イ) 説明書なくして、パソコンの使い方わからなくっている。
- ウ) シンガポールは赤道直下だから冬でも雪降らなくっている。
- エ) 晃は生まれつき体大きくっている。
- オ) 隣のおじさん、二日酔いで具合悪くっている。

[解答] ウ)、エ)

ア)、イ)、オ) は一時的な状態を表しているので「くている」を自然に使えます。ウ)、エ) は恒常的な特性を表すので「くている」は使えません。

■練習問題 5

例にならって、次に示す標準語の文を、一時的状態を表す「～くている」を使った福島語の文に直しなさい。

例) お年玉をもらって、うれしい。→ お年玉もらって、うれしくっている。

- 1) 昨日徹夜したから、眠い。
- 2) 一人ぼっちで、さみしかった。
- 3) 夏休みは旅行に行きたかったんだ。
- 4) 音が小さくて聞こえない。

[解答]

- 1) 昨日徹夜したから、眠くっている。
- 2) 一人ぼっちで、さみしくっていた。
- 3) 夏休みは旅行に行きたくっていたんだ。
- 4) 音小さくて聞こえねくっている。

[解説]

1)、4) は現在の一時的状態を表すので、Lesson11 で習ったとおり、「いる」を「いた」にかえて「くていた」にしてもおかしくありません。4) の「小さくて」は「ちゃっこくて」と言うこともあります。

Lesson13 いいから飲まっせ。遠慮しらんな。

■練習問題 1

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 学校終わったら、早く家さ帰って来（こ）お。
- 2) おれさもプレゼントけろ。

[解答]

- 1) 学校が終わったら、早く家に帰って来い。
- 2) 私にもプレゼントをくれ。

[解説]

福島語の命令形は、文脈やイントネーションによっては優しい意味になりますが、標準語の命令形はややきつい表現なので、1) を「帰って来て」、2) を「ください」のように、やや優しめの表現に標準語訳してもよいと思います。

■練習問題 2

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) わかんねえときは、教（おせ）てけろ。
- 2) 時間になったら呼んでくれっかい？
- 3) そこのティッシュとってくんにかい？
- 4) おれさもその写真見せてくなんしょ。

[解答]

- 1) わからないときは、教えてくれ。
- 2) 時間になったら呼んでくれますか？
- 3) そこのティッシュをとってくれませんか？
- 4) 私にもその写真を見せてください。

[解説]

上の練習問題 1 と同じく、実際には、文脈によって訳し方が少し変わってもよいと思います。

■練習問題 3

次に示す標準語の文を福島語の文に直しなさい。

- 1) 謝るから許してくれ。
- 2) 私話を聞いてくれますか？
- 3) ここで待っててくれませんか？
- 4) 私をその車に乗っけてください。

[解答]

- 1) 謝っから許してけろ。
- 2) おれの話聞いてくれっかい？
- 3) ここで待っててくんにかい？
- 4) おれんとこそその車さ乗っけてくなんしょ。

[解説]

教科書では扱いませんでしたが、3) は「待っててくんにいべか」、4) は「乗っけてくんつえ」など、様々な依頼の表現があります。ここでは、教科書で扱った表現に限って解答を示しましたが、実際には多様な解答がありえます。

■練習問題 4

次に示す福島語の文を標準語の文に直しなさい。

- 1) 暑いから、上着脱がっせ。
- 2) 心配なことあったら、この番号さ電話しっせ。
- 3) じいちゃんもこっちさ来てテレビ見らんしょ。
- 4) さみしいときは、いつでもここさ来（こ）らんしょ。

[解答]

- 1) 暑いから、上着を脱ぎな。
- 2) 心配なことがあったら、この番号に電話しな。
- 3) じいちゃんもこっちに来てテレビを見な。
- 4) さみしいときは、いつでもここに来な。

[解説]

上の解答では「～な」と標準語訳しましたが、文脈によっては「～てください」と訳してもよいでしょう。

■練習問題 5

次に示す標準語の勧めの文を「っせ形」か「んしょ形」を使った福島語の文に直しなさい。

- 1) もう遅いから帰りな。
- 2) いい天気だから、カーテンを開けな。
- 3) あとで私の部屋に来な。
- 4) 休みの日くらいゆっくりしな。

[解答]

- 1) もう遅いから帰らっせ／帰らんしょ。
- 2) いい天気だから、カーテン開けっせ／開けらんしょ。
- 3) あとでおれの部屋さ来（き）っせ／来（こ）らんしょ。
- 4) 休みの日くらいゆっくりしっせ／しらんしょ。

[解説]

2) は「開けらっせ」、3) は「来（こ）らっせ」と言う人もいます。また、教科書では扱いませんでしたが、1) ～4) を「帰りなんしょ」「開けなんしょ」「来（き）なんしょ」「ゆっくりしなんしょ」と言う場合もあります。「～なんしょ」はかなり丁寧な表現です。

■練習問題 6

次に示す標準語の禁止の文を「んな形」を使った福島語の文に直しなさい。

- 1) ここに荷物を置くな。
- 2) 寒いから窓を開けるな。
- 3) 危ないから来るな。
- 4) ケガをしてるんだから、無理するな。

[解答]

- 1) ここさ荷物置かんな。

- 2) 寒いから窓開けらんな。
- 3) 危ねえから来（こ）らんな。
- 4) ケガしてんだから、無理しらんな。

[解説]

ここでは「んな形」の使い方を練習しましたが、標準語と同じ「な形」もよく使われます。